

1/100 scale MASTER GRADE RGZ-95C ReZEL(COMMANDER TYPE)

© 創通・サンライズ

RGZ-95C ReZEL (COMMANDER TYPE)

E.F.S.F. MASS-PRODUCED TRANSFORMABLE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE RGZ-95C ReZEL(COMMANDER TYPE)



地球連邦軍可変量産型モビルスーツ
RGZ-95C「リゼル(隊長機)」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2011 MADE IN JAPAN

※写真の完成品は、塗装してあります。



0166786



「バンダイプラモデル
アクションベース1」
(別売り)を使用
しています。



地球連邦軍可変量産型モビルスーツ
RGZ-95C「リゼル(隊長機)」
1/100スケール
マスターグレードモデル

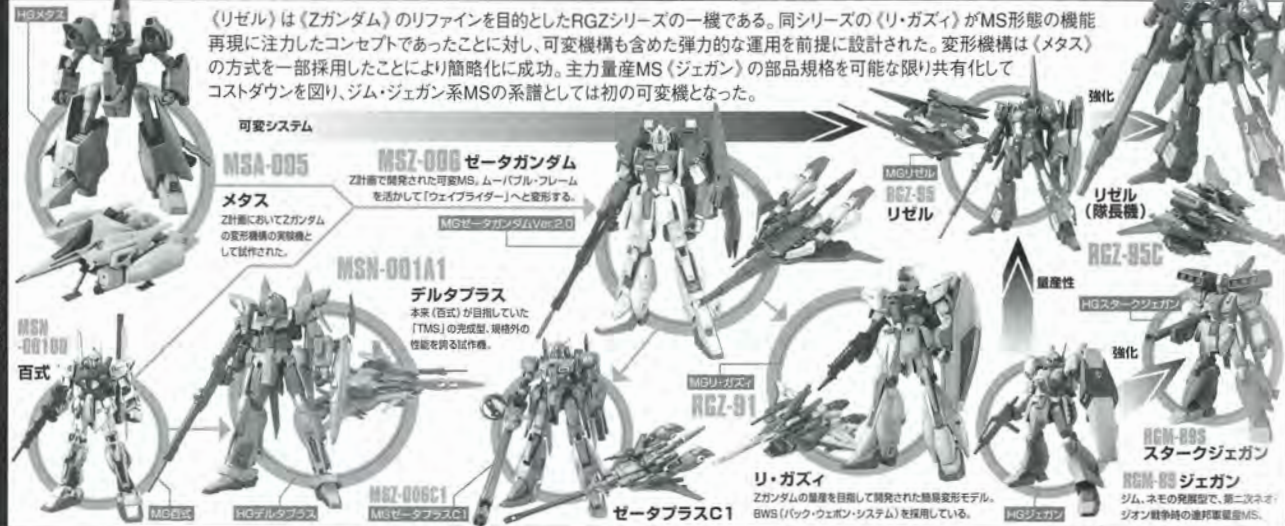
RGZ-95C ReZEL (COMMANDER TYPE)

宇宙世紀0096年。開放されれば連邦政府を転覆しかねないと言われる『ラプラスの箱』を巡って、地球連邦軍のロンド・ベルとネオ・ジオン残党軍『袖付き』による戦いが勃発する。その混乱のさなか、『ラプラスの箱』の鍵となるモビルスーツ『ユニコーンガンダム』を父から託された少年パナージ・リンクスは、『袖付き』のマリーダ・クルス中尉が駆る『クシャトリヤ』と交戦の後、ロンド・ベルの強襲揚陸艦『ネル・アーガマ』に拿捕されてしまう。そこには、パナージの運命を変える切っ掛けとなった謎の少女、オードリー・バーンも収容されていた。その『ネル・アーガマ』に対し、単機で挑みかかるモビルスーツが出現する。『シンanju』と呼ばれる真紅の機体を駆る人物こそ、『シャアの再来』の二つ名を持つ『袖付き』の首魁、フル・フロンタルであった……!



※この商品には、
「MG リゼル」が
入っています。

「リゼル」は『Zガンダム』のリファインを目的としたRGZシリーズの一機である。同シリーズの「リ・ガシィ」がMS形態の機能再現に注力したコンセプトであったことに対し、可変機構も含めた弾力的な運用を前提に設計された。変形機構は「メタス」の方式を一部採用したことにより簡略化に成功。主力量産MS「ジェガン」の部品規格を可能な限り共有化してコストダウンを図り、ジム・ジェガン系MSの系譜としては初の可変機となった。



「《Z》を冠するTMSの、本来在るべき姿を」——RGZ-95《リゼル》は地球連邦軍からの委託を受け、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社が開発した量産型TMS（Transformable Mobile Suit=可変モビルスーツ）である。MSZ-006《Zガンダム》の量産化を目的とした本機は、開発当時の主力モビルスーツであったRGM-89《ジェガン》の部品規格を組み込むことで、TMSといえども大幅なコストダウンを計上することが可能となり、運用面においても《ジェガン》との連携を前提とした設計が行われたことによって、要求されていたコスト、運用条件を高いレベルでクリアした待望の量産型TMSとして完成を見た。地球連邦宇宙軍の独立機動艦隊、ロンド・ベルに優先して配備された本機ではあったが、モビルスーツ部隊長をはじめとした一部の熟練パイロットからは、新兵にも扱える方向性にとって開発された本機の総合性能に苦言を唱える者も存在した。そんな現場の声を受けて特別仕様機として用意された改修機が、RGZ-95C《リゼル》コマンドタイプである。前述の方向性の象徴とも言える、あえて限界性能を引き下げる調整がなされていた一般機をベースに、メイン、サブを含めた各ラスター推力のリミッター上限を解除



し、それに伴って発生する機体への負荷に耐えうるムーバブル・フレームの補強を行うなど、《リゼル》本来が持っていた機体性能に引き戻すだけではなく、耐久面においても信頼性を増した再調整が図られている。その他、操縦系の反応速度を向上させる機体追従性の改善も行われており、総体的に均一化された動きを重視されていた一般機とは意味合いを大きく変え、パイロット個人の資質を問われるピーキーな挙動の「人を選ぶ」機体として仕上がったのである。U.C.0096において、「袖付き」と呼ばれるネオ・ジオン残党軍との争乱の際、背面ユニットを可変翼タイプのウイングバインダーに換装し、オプションのメガ・ビーム・ランチャーを組み合わせたコマンダータイプが、ロンド・ベル所属の強襲揚陸艦、ネル・アーガマに隊長機として複数配備された。時代が要求した《Z》の血統は、そこに自分の生を重ねてきた者、いわば《Z乗り》達にとって満足できる物ではなかった。だが、失われていた要素を取り戻した本機に包まれた彼らは、僅かに改修でそれを成し得た《リゼル》の基本設計の素晴らしさを称え、技術者達に対して多大なる敬意を表したという。

MEGA BEAM LAUNCHER かつて《Zガンダム》が運用していたハイパー・メガ・ランチャーのコンセプトを継承した、長距離支援を可能とする（リゼル）専用の高出力ビーム兵装。装備の際は背面部のノーズバックパックと固定接続し、モビルスーツ本体のジェネレーターからのエネルギー供給に加え、メガ・ビーム・ランチャー本体に内蔵されたサブ・ジェネレーターがそれを補うことにより、高威力ながらも安定した出力と弾数を誇る。なお、一般機にも装備が可能である。



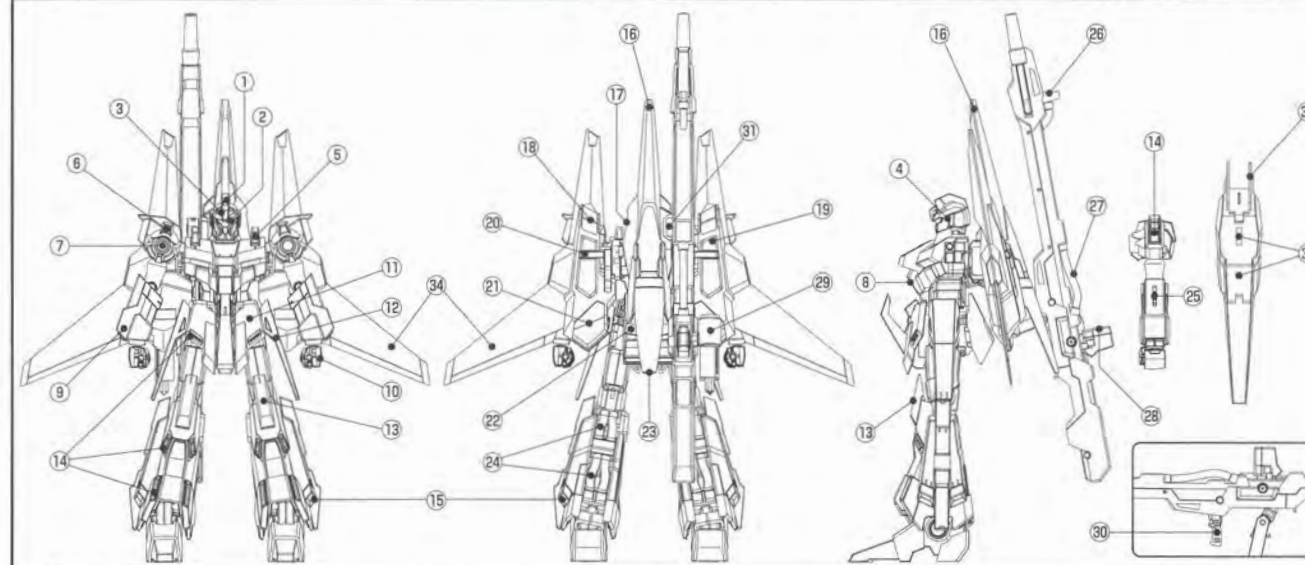
WING BINDER 当時の連邦軍は新規開発よりも、基本となる機体にオプション装備を換装することによって、多角的な運用に対応する方針を優先しており、(リゼル)にも複数種類の背面ユニットが設定されている。本装備はその一つで、大気圏への突入能力と圏内での飛行能力を付加する、可変翼タイプの背面ユニットである。有重力下でのSFS運用を可能とするために推力値が向上しており、宇宙空間に限定された任務においても、機動性に勝る本装備に換装した本機が実戦配備された記録が存在する。



SENSOR 頭部のメイン、サブカメラに加え、MSA-005《メタス》を参考に、肩部をはじめとした複数のセンサーが上半身に集中して配置されている。モビルスーツ小隊での連携を重視した一般機と違って、単機での突出した戦術が想定された《リゼル》コマンダータイプのセンサー色は、一般機の「レッド」から戦場での識別を容易とするため「グリーン」に改められており、機体色の違いも相まって、連邦軍では珍しいエース用量産機の印象を強く示している。

《リゼル》の可変形態は《Ζガンダム》に倣いウェイブライダーと呼称され、作戦宙域への迅速な展開を可能とする。軍縮傾向にあったこの時代は、高いコストを必要としたTMSにとって、通常モビルスーツを運搬するSFS（サブ・フライト・システム）としての副次的運用法にその生き残りの道を見出していた。そのため《リゼル》も同様に、開発当初から広域に配備されていた《ジェガン》との連携を想定しており、機体名称は「リファイン・ゼータ・エスコート・リーダー（Re-fine Zeta-gundam Escort Leader）」の頭文字の略称としている。変形によってスラスターを一方方向に収束し、そこから発生する余剰推力を活かした《リゼル》のSFS運用は、母艦内に純SFS用のスペースを必要とせず、前線到着後に《リゼル》自身も参戦が可能であるという無駄のない戦術を行える利点が一定の評価を得て、軍上層部による開発承認への決め手となった。新兵にも扱えるTMSを目指した本機は、操作難度の軽減を目的とした、両形態時の操作感覚を統一化するコントロール・サポート・システムが備えられていたが、熟練パイロット達にとっては、航空機としての細やかな機動を削ぐ、いわば妨げとなる機能と言え、配備された《リゼル》コマンドタイプの多くの機体は同システムをカットし、彼らが慣れ親しんできた従来の操縦方式に戻したという逸話が残っている。

Parts and spec RGZ-95C ReZEL [COMMANDER TYPE]



- | | | | | |
|------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| ①メインカメラ | ⑧コックピットハッチ | ⑮バーニアスラスター | ⑳サブスラスター | ㉔ロングレンジセンサー |
| ②サブカメラ | ⑨ユニットコンテナ | ⑯ノーズバックパック | ㉑スラスターカバー | ㉕グリップ |
| ③マルチアンテナ | ⑩マニピュレーター | ⑰サイドセンサーユニット | ㉒パワーサブライヤー | ㉖パワーサブライヤージョイント |
| ④60mmバルカン | ⑪フロントアーマー | ⑱インテーク | ㉓マルチプルハードポイント | ㉗ハンマーブレード |
| ⑤チェストセンサー | ⑫サイドアーマー | ⑲ウイングバインダーユニット | ㉔ナロウレンジセンサー | ㉘ハードポイント |
| ⑥ショルダーセンサー | ⑬ニアマー/ランディングギア | ㉑サブフライトグリップ | ㉕データ/パワーサブライヤー | ㉙VGウイング |
| ⑦メインセンサー | ⑭姿勢制御バーニア | ㉒メインスラスター | ㉖運動式ターゲットセンサー | |

△ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
 - 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
 - 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
 - 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
 - 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

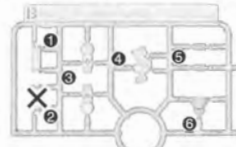
パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

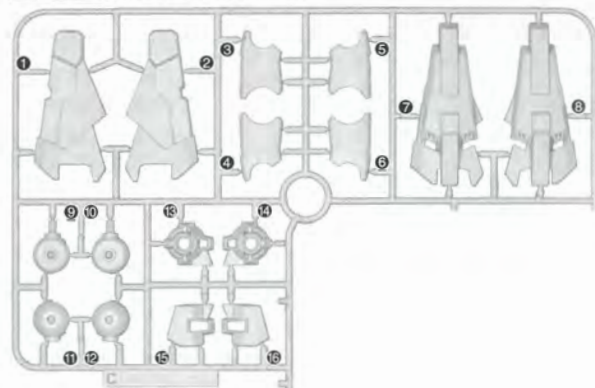
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



Bパーツ (スチロール樹脂: PS)

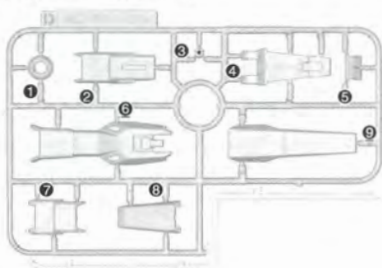


Cパーツ (スチロール樹脂: PS)

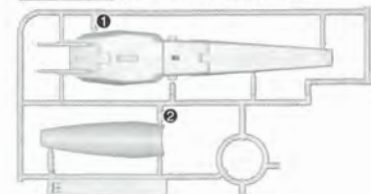


Dパーツ (x2)

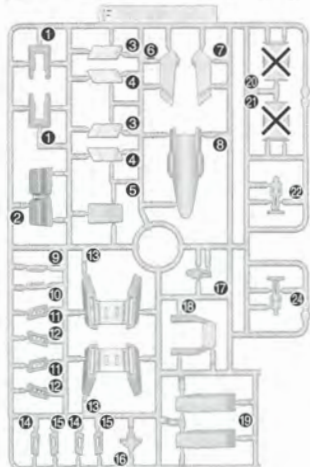
(スチロール樹脂: PS)



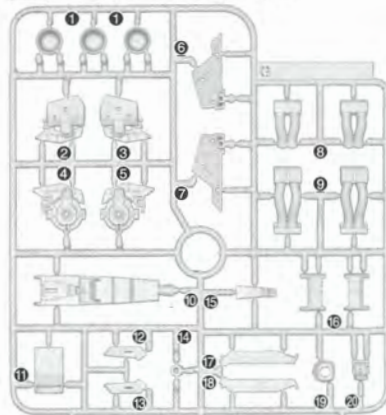
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



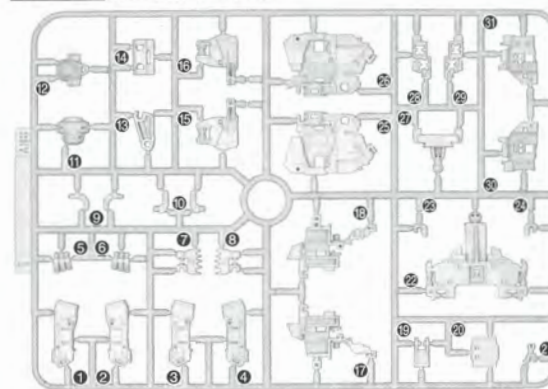
Fパーツ (スチロール樹脂: PS)



Gパーツ (スチロール樹脂: PS)

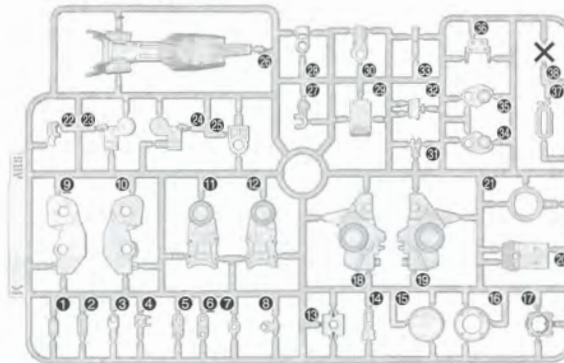


Iパーツ (ABS樹脂: ABS)

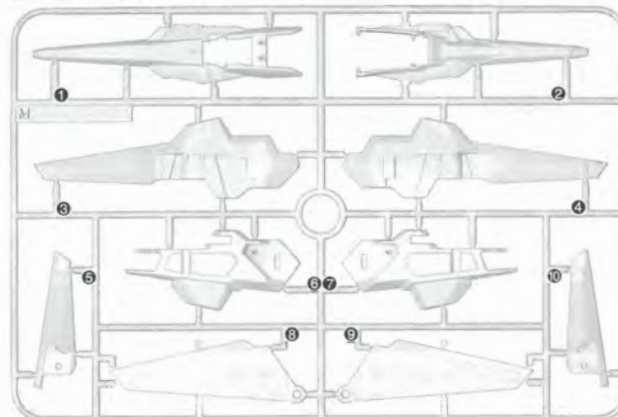


Kパーツ (x2)

(ABS樹脂: ABS)



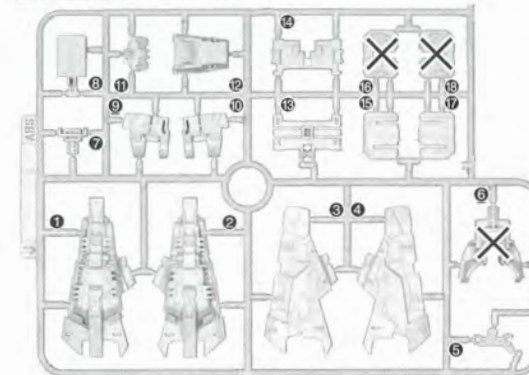
Mパーツ (スチロール樹脂: PS)



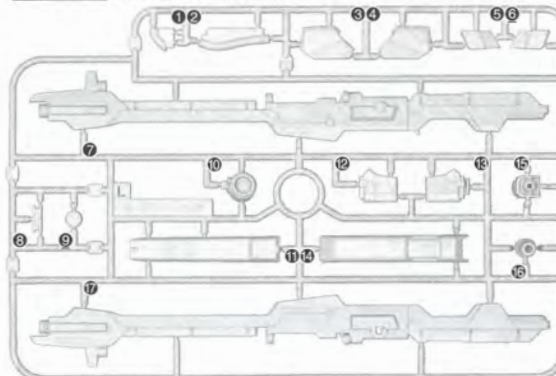
SB1パーツ (スチロール樹脂: PS)



Jパーツ (ABS樹脂: ABS)



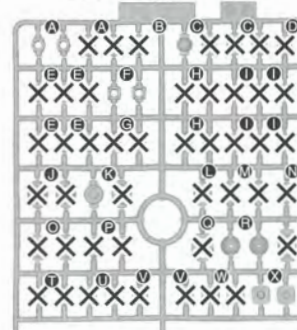
Lパーツ (スチロール樹脂: PS)



Nパーツ (ABS樹脂: ABS)



〈PC-122〉
(ポリエチレン: PE)



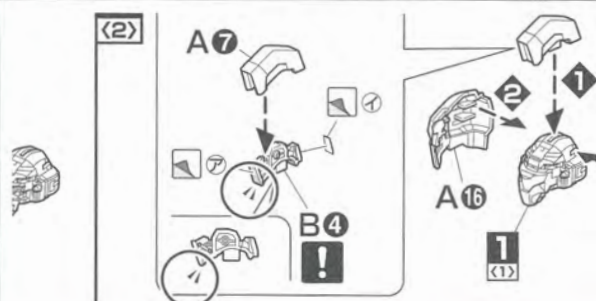
カラーシール.....1枚
マーキングシール.....1枚
ガンダムデカール.....1枚

※クリアパーツの中には、製造工程上気泡が入っているものがありますがご了承ください。

組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

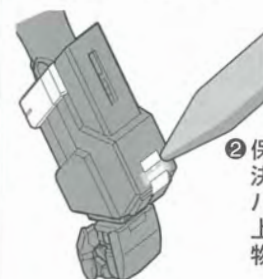
※組み立て図中に「V」のついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

保護シート



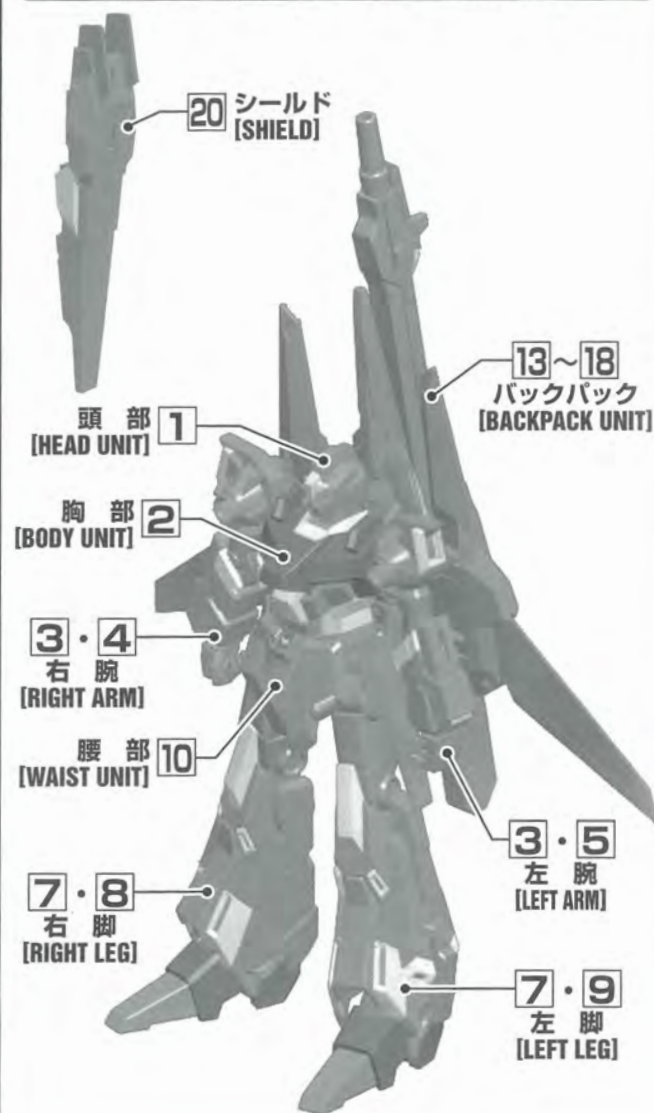
②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。



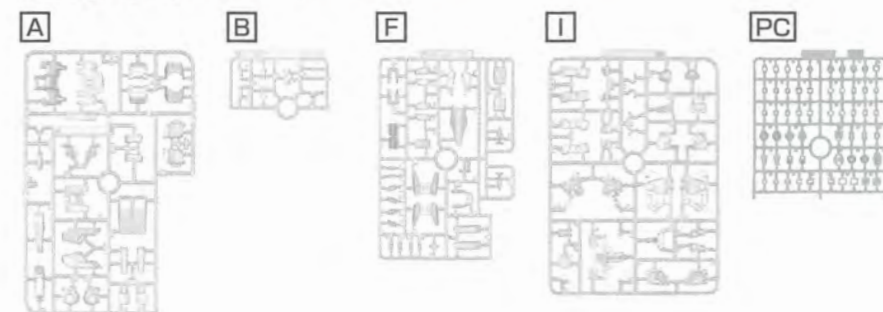
※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう



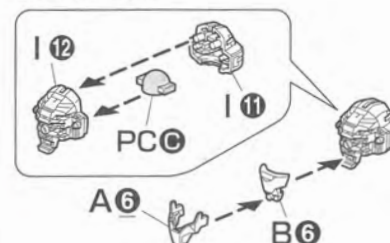
1 HEAD UNIT

・組立1で使用するパーツ



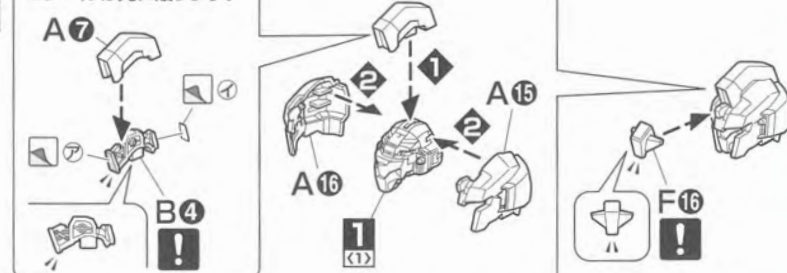
・カラーシール

1 (頭部の組立) <1> HEAD UNIT



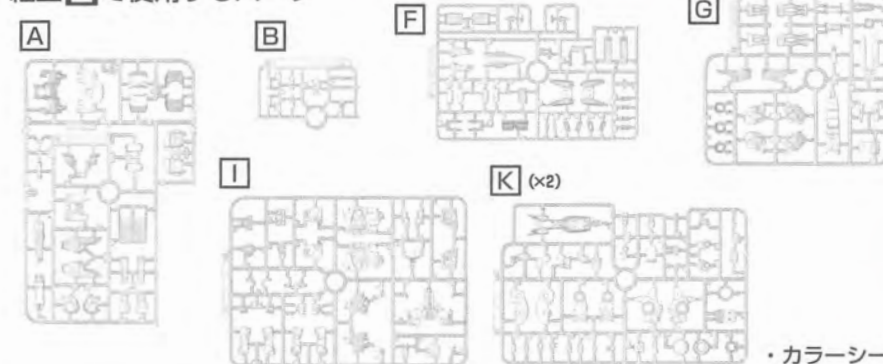
1 (2) <2>

※シールは先に貼ります。



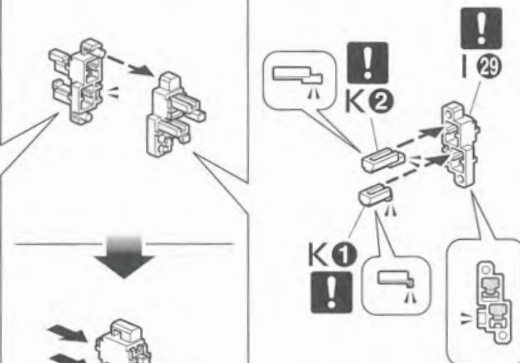
2 BODY UNIT

・組立2で使用するパーツ

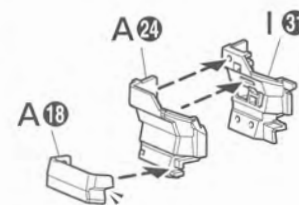


・カラーシール

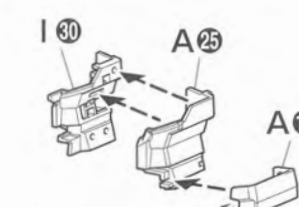
2 (胸部の組立) <1> BODY UNIT



2 (2) <2>



2 (3) <3>

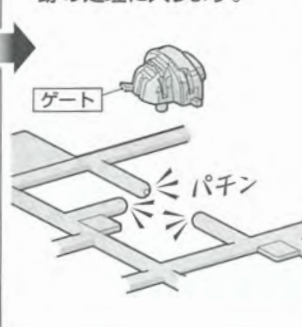


パーツの切り取りかた

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲートの処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



5

(2)

5

(3)

※綿棒などで押し付けて、形状に合わせて貼り付けてください。

5

(4)

5

(5)

5

(4)

2で作った胸部

4で作った右腕

5で作った左腕

7

(3)

x2

7

(4)

x2

7

(5)

x2

〈内側から見た図〉

7

(6)

x2

〈後ろから見た図〉

7

(7)

x2

7

(8)

x2

※図の位置に取り付けます。

7

8

9

LEG UNIT

・組立7・8・9で使用するパーツ

A

C

D (x2)

F

G

J

K (x2)

PC

7

(1)

x2

〔脚部の組立〕

LEG UNIT

7

(2)

x2

※きれいに切り取ります。

8

(1)

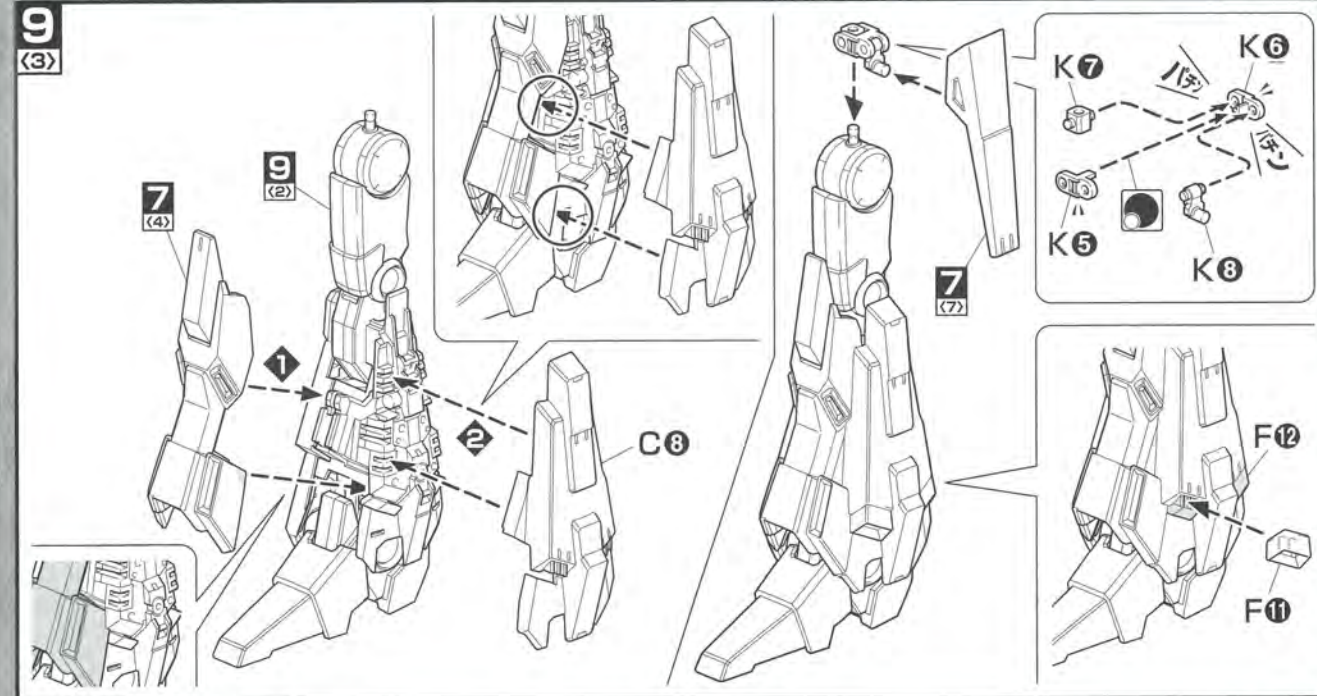
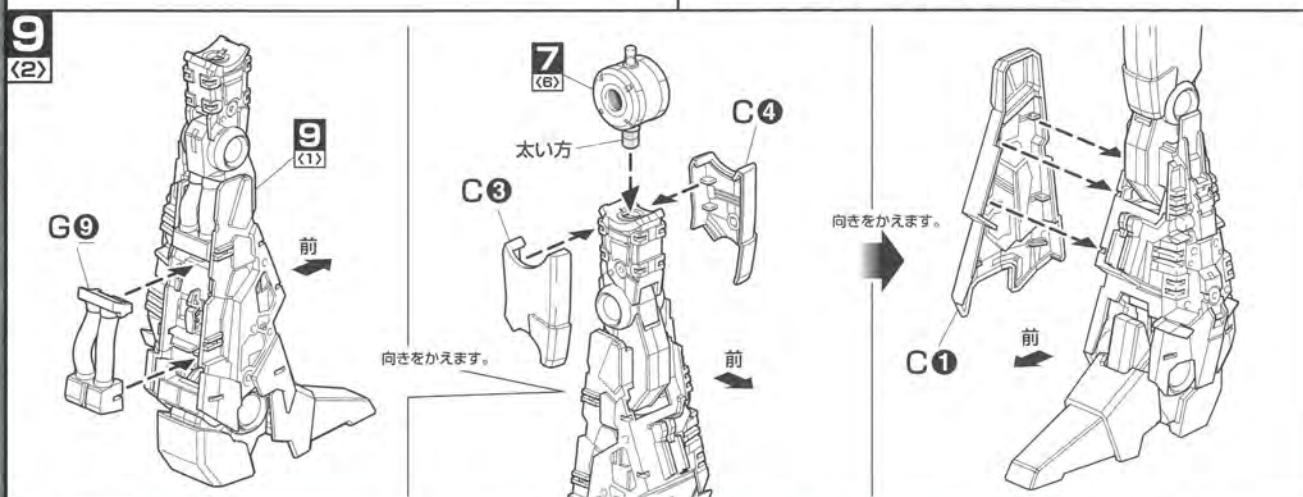
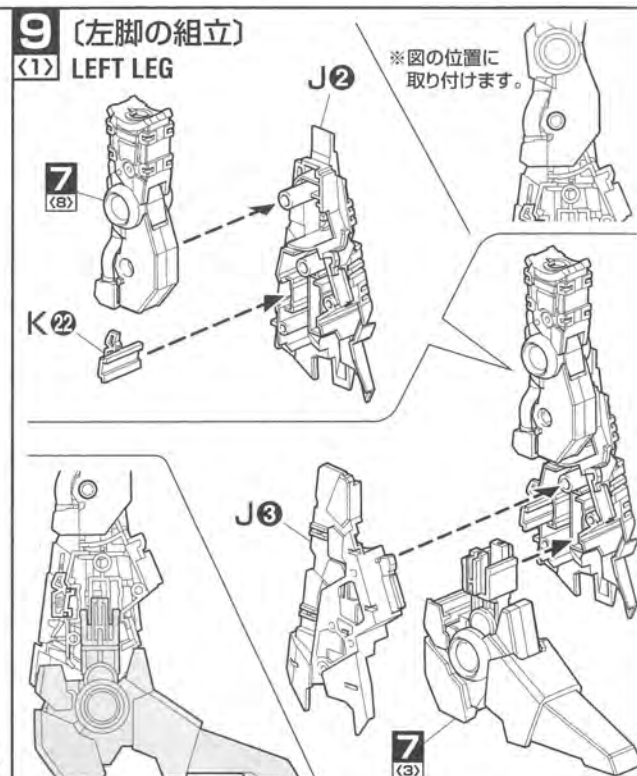
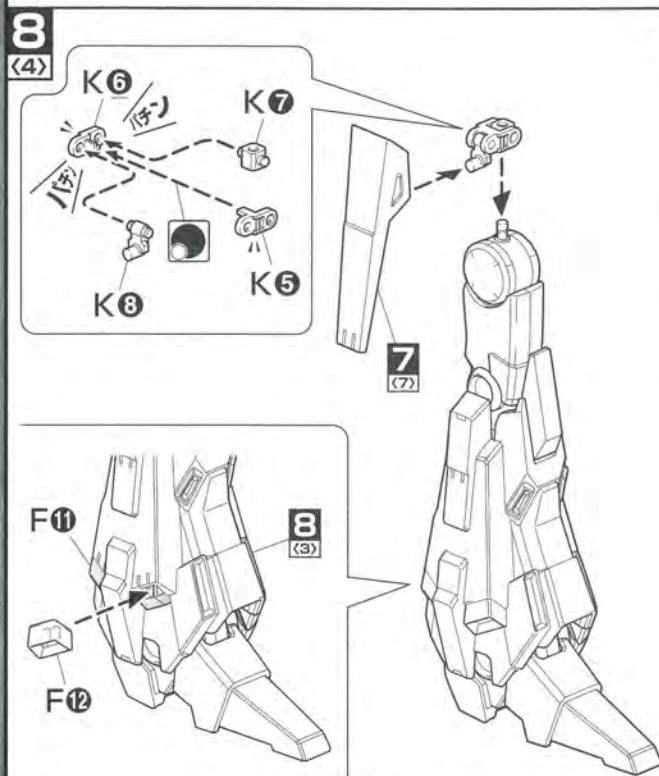
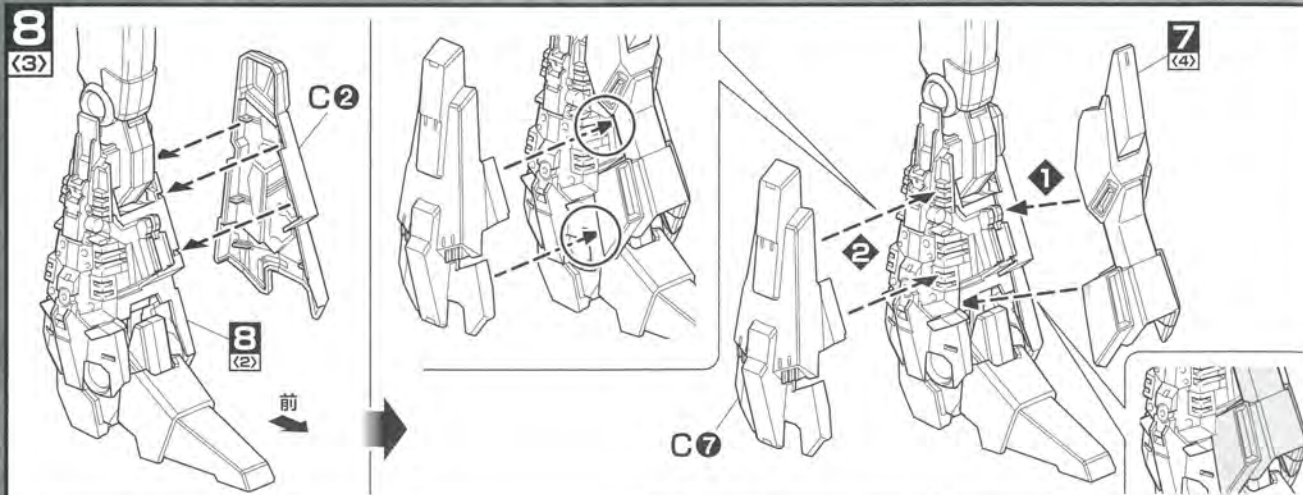
〔右脚の組立〕

RIGHT LEG

8

(2)

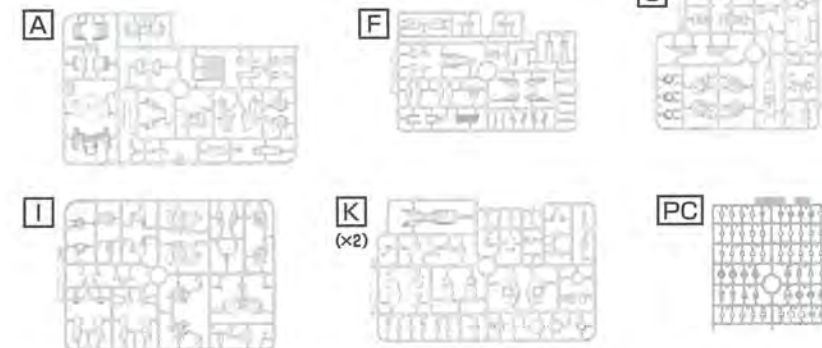
※図の位置に取り付けます。



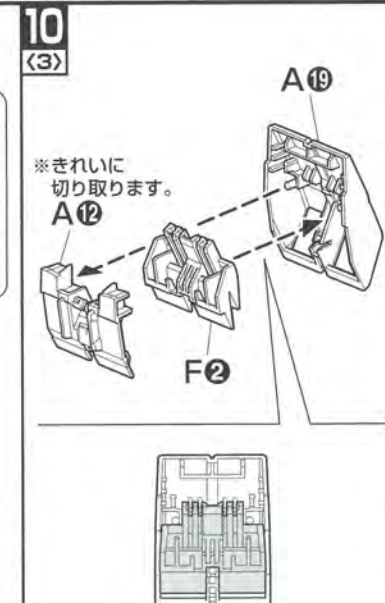
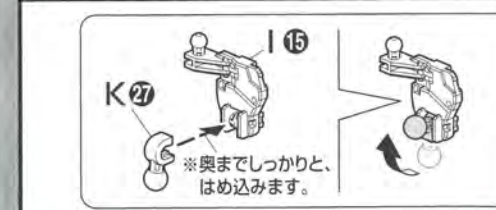
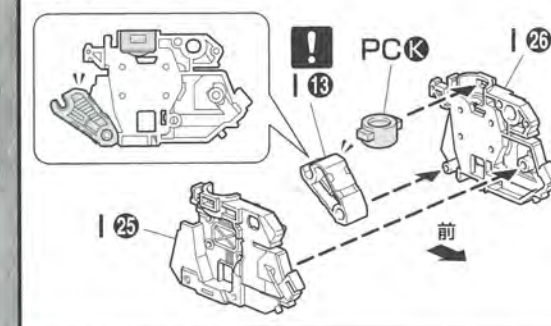
10 WAIST UNIT



・組立10で使用するパーツ



10 (腰部の組立) (1) WAIST UNIT



U.C.0096 THE La+ MEMORY



強襲、四枚羽根

工業コロニー（インダストリアル7）のコロニービルダー、《メガリナ》へ通じる搬入ゲート。その隔壁の中央に、ぼうと赤熱した光が生じる。それはあつという間に拡大し、内側から突き上げる熱が巨大な隔壁をたわませ始めて……赤熱が白熱に転じた直後、ふくれあがった隔壁は弾け飛び、爆発的な激流をゲート中にもたらす。出来上がったばかりの破孔から、熱波を切り裂いてゲート内に飛び込んできた空間戦闘機は、わずか5秒でその姿を人型へと変えた。地球連邦軍の独立機動艦隊、ロンド・ベルに所属する可変モビルスーツ《リゼル》隊長機。インディゴブルーを基調として、各所に漆黒のカラーリングで引き締められた機体は、通常の《リゼル》よりも鋭い機動を見せる。その眼前には、ターゲットである「袖付き」に所属する四枚羽根のモビルスーツ《クシャトリヤ》が圧倒的な存在感を放っていた。臆せず瞬時に戦闘態勢をとった《リゼル》隊長機は、もう一方の腕からグレネード・ランチャーを撃ち放つ。四枚羽根を駆る「袖付き」のパイロットは、彼の登場を察知していたのか、それとも虚を突かれたのか。どちらにせよ、気迫に押し出されるように距離を取る《クシャトリヤ》を追う《リゼル》隊長機の動きは、その姿も相まって、猛禽類が巨大な獲物を狙う様に似ていた。金属が擦れ合う鈍い音をたてながら構えた、メガ・ビーム・ランチャーと連動するグリーンのバイザーが今、蒼鷹の双眸となる……!

支配を穿つ一撃

「ガロム、下だ!」その暗礁宙域は、三機のモビルスーツが駆ける戦闘空間と化していた。連邦軍のモビルスーツ《リゼル》が編隊を組み、「袖付き」一機の敵影を追う。二対一。戦力的には明らかに優勢に見えるはずの連邦側であったが、実際そうでないのは《リゼル》を駆るパイロット達が一番理解している。つい先刻まで三対一だった圧倒的な戦力差を、いとも容易く削り取られたのだから。人型を散らした爆機の爆光が、「赤い彗星の再来」と噂された《シナンジュ》を虚空に浮かび上がらせる。《リゼル》隊長機のパイロット、ノーム・バシリコック少佐は、かつての戦場で伝え聞き、そして自身でも目撃した特別な敵機の印象を重ね合わせ、肌を粟立たせずにいらなかった。「本物のシャアだとしても言うのか……!」多くの実戦を経験してきたノームですら感得してしまう。圧倒的なプレッシャー。もう一機の《リゼル》パイロット、リディ・マーセナス少尉は初めて味わう重圧に、完全に取り込まれているのがわかった。相手の圧に押されながらの攻撃は、もはや撃たされているだけでなく、彼が狙った弾は全てデブリの奔流に飲み込まれていく。過去の経験でも味わってきた、強者に支配された戦い。このままでは。——俺は潮時だが、リディ少尉。お前にはやらなけりやならん事がある……! ノームの《リゼル》隊長機は一つ覚悟を決め、強者《シナンジュ》へ突貫する!!



※写真はビーム・ライフル等、一部「MGリゼル」(別売り)の物を使用しています。

※写真はイメージです。

PAINTING (塗装)

RGZ-95C リゼル(隊長機) 指定色

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

本体などの塗装色 インディゴブルー (80%) +イエローグリーン (20%) +ホワイト (少量)	センサーなどの塗装色 蛍光グリーン (100%) 内部メカ下地にシルバー (100%)	内部フレームなどの塗装色 ニュートラルグレー (90%) +ブラック (10%)
胸部などの塗装色 ブルー (45%) + ホワイト (25%) +ブラック (20%) + レッド (10%)	腹部などの塗装色 ホワイト (85%) + ミディアムブルー (10%) +ブラック (5%) + イエロー (少量)	メガ・ビーム・ランチャーなどの塗装色 ミッドナイトブルー (90%) +ホワイト (10%)
	顔などの塗装色 ホワイト (90%) + ニュートラルグレー (10%) + ミディアムブルー (少量)	バーニア内側などの塗装色 イエロー (60%) +ホワイト (30%) +オレンジ (10%)

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

FIGURE 連邦軍パイロット (ノーム・バシリコック)

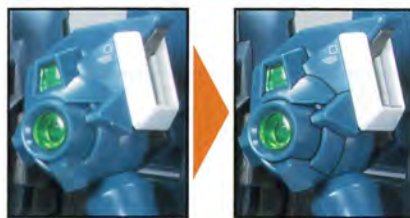
ノーマルスーツの塗装色 ミディアムブルー (95%) +ブルー (5%) + レッド (少量)	ノーマルスーツ 腕内側 ヘルメットの塗装色 ミッドナイトブルー (100%)
ヘルメット バイザー部の塗装色 スカイブルー (100%)	ノーマルスーツ ブーツの塗装色 エアクラフトグレー (100%)
右足首、バック部の塗装色 ニュートラルグレー (80%) +ミディアムブルー (20%)	



ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



[before]

[after]

TRANSFORMATION



Ankle



WR時、足首が内側へスライドする。

Backpack

脚部との一体感のためバックパックを下げることで、WR時の機体の厚みを抑えている。



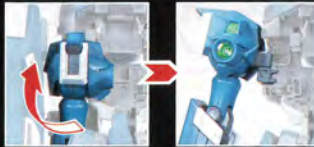
バックパック上面に、他MS牽引用のグリップが装備されている。

Head



変形時、胸部からエレベーター式にスライドし展開。バイザー内には、精密なディテールを表現。

Shoulder



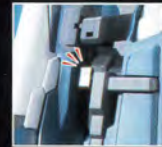
胸内部に格納された腕部は、軸部の複数のジョイントにより展開する。

Hip joint



股関節は左右分割、WR時は背部に移動するギミック。

Binder



左右バインダーと中央部が結合される。

可変MS「リゼル(隊長機)」へつながるMSの進化をMGで検証せよ!!



ゼータガンダムVer.2.0(別売り)

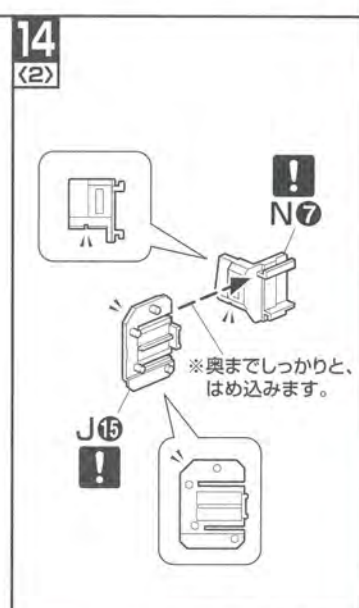
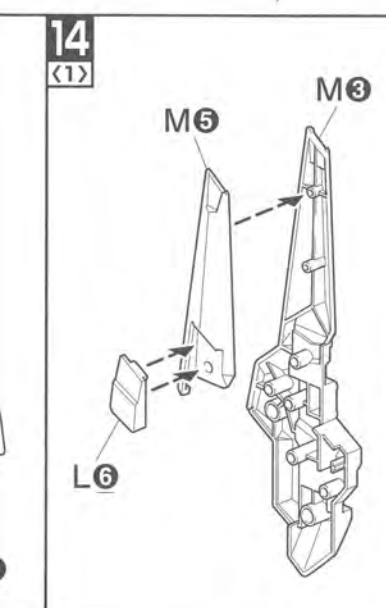
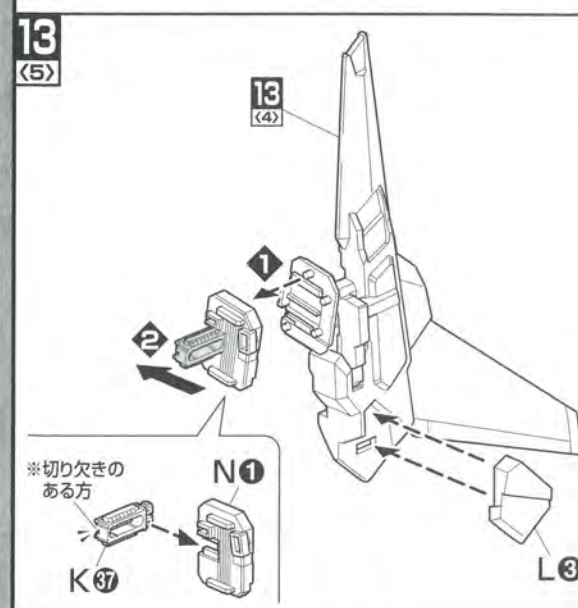
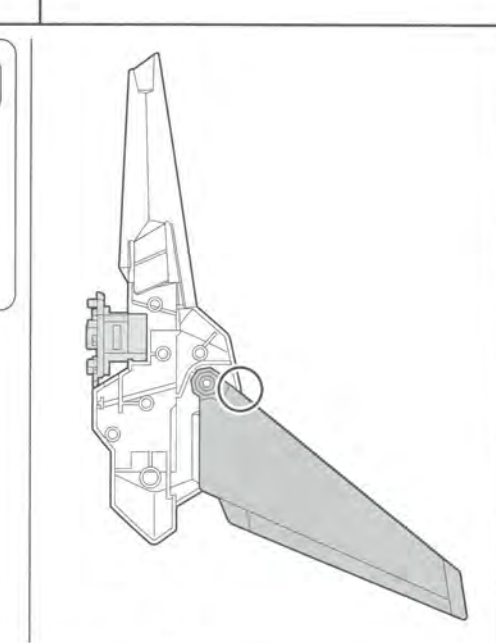
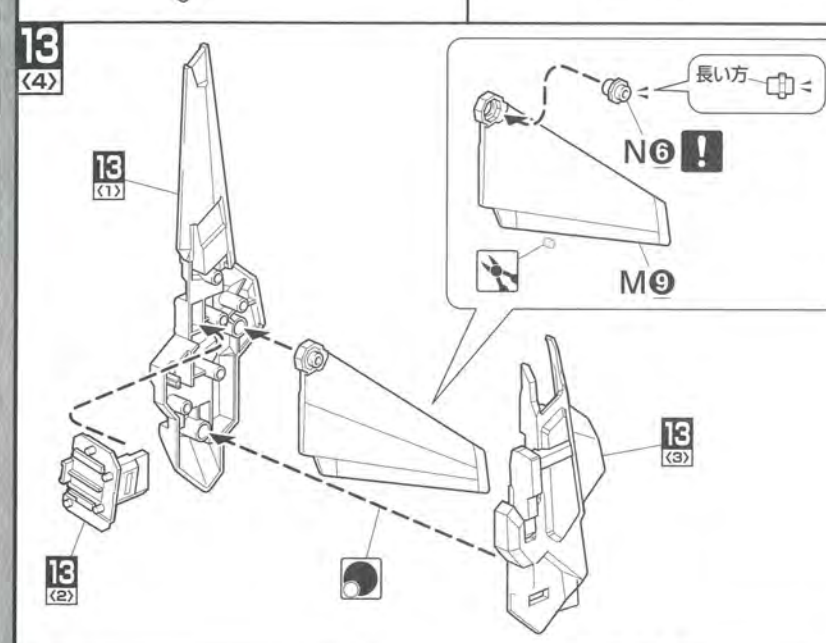
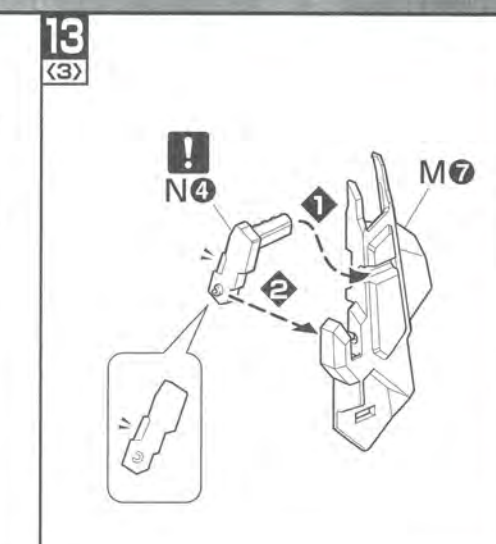
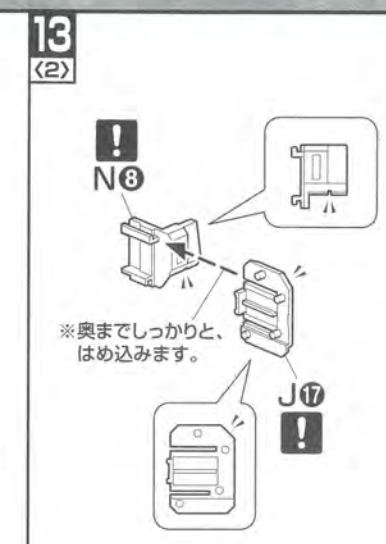
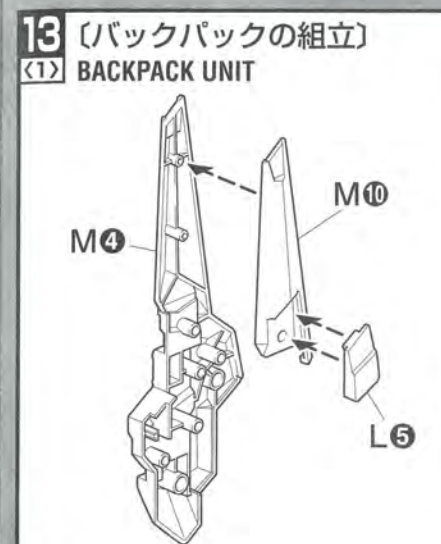
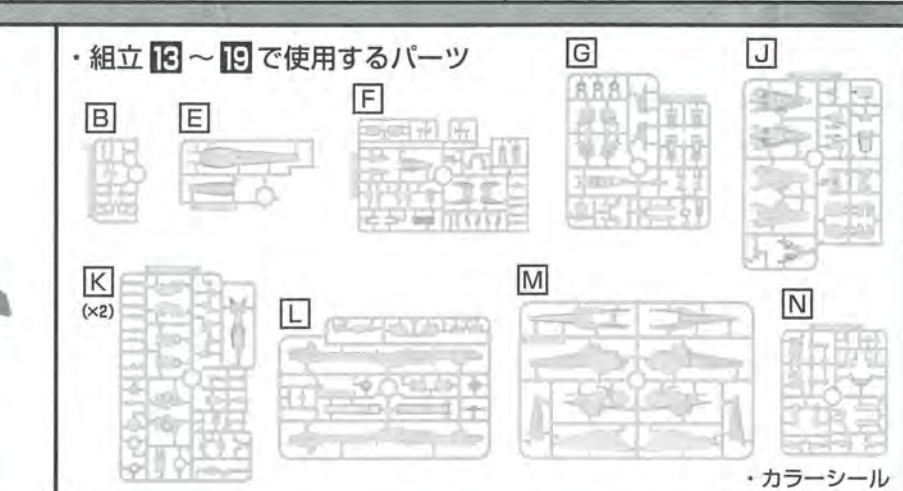
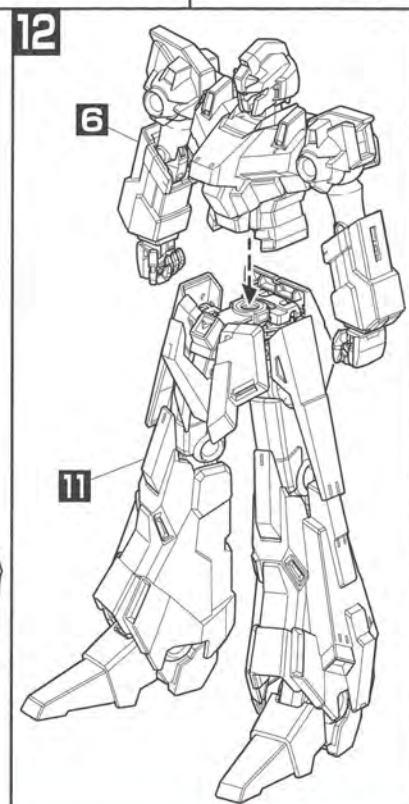
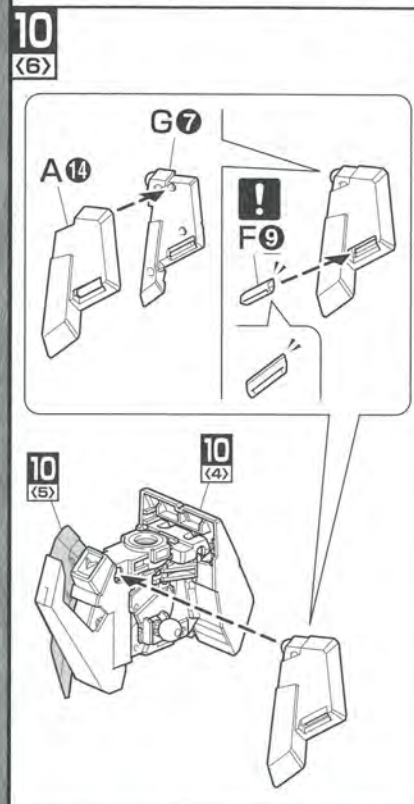
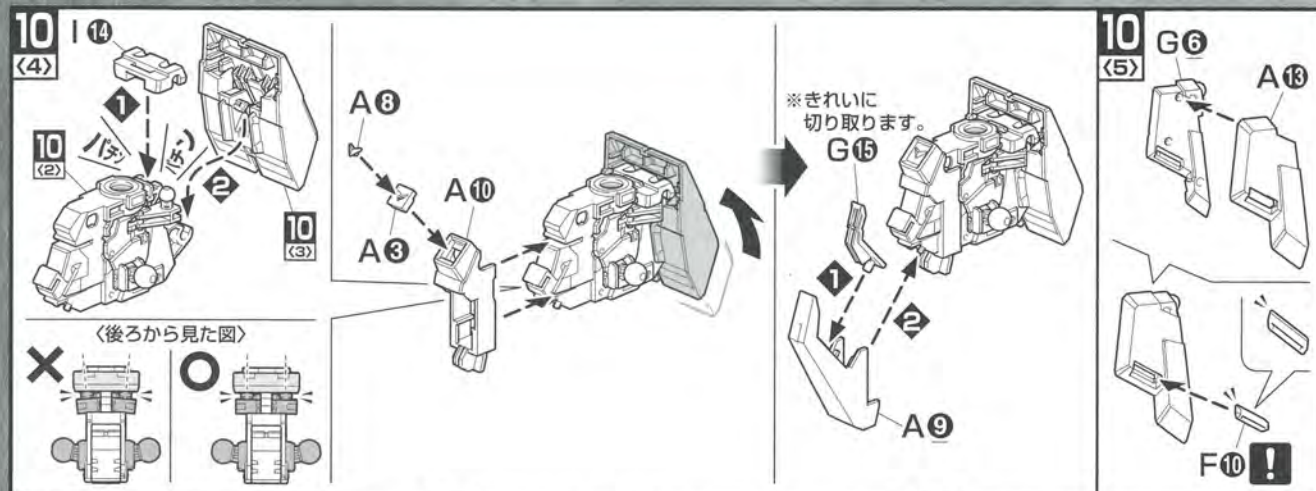
ウェイブライダー(WR)と呼ばれる巡航形態への変形能力を有し、宇宙空間から重力下までの連続運用を可能とする破格の汎用性を実現した。可変機のひとつの完成形といえる。

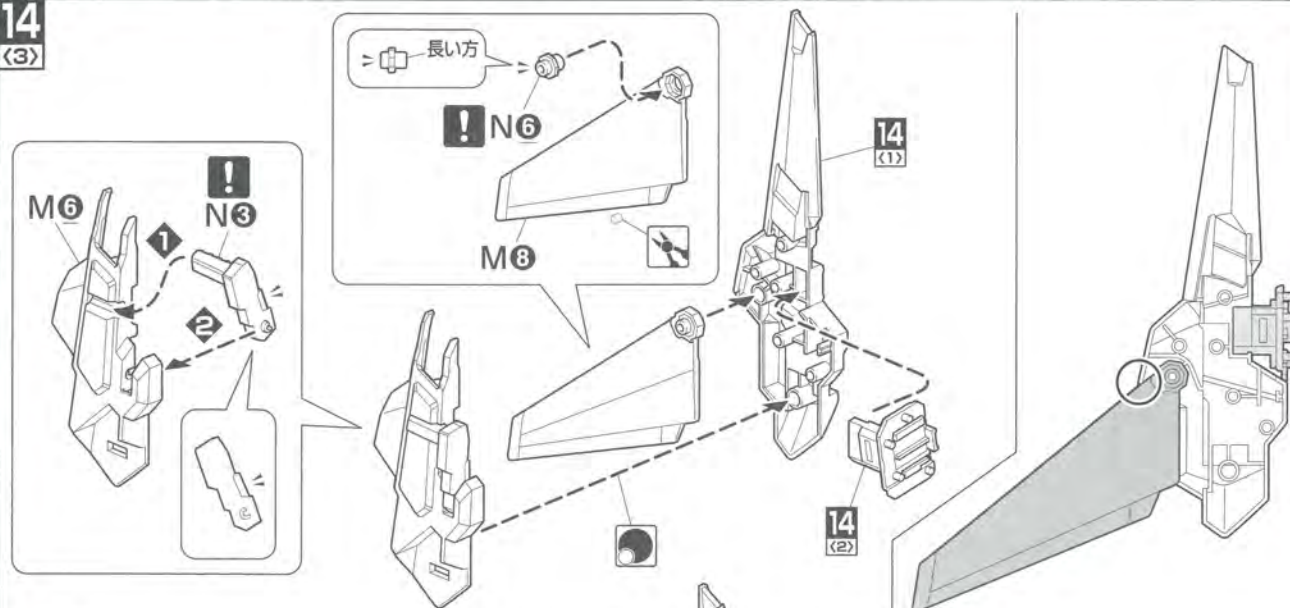
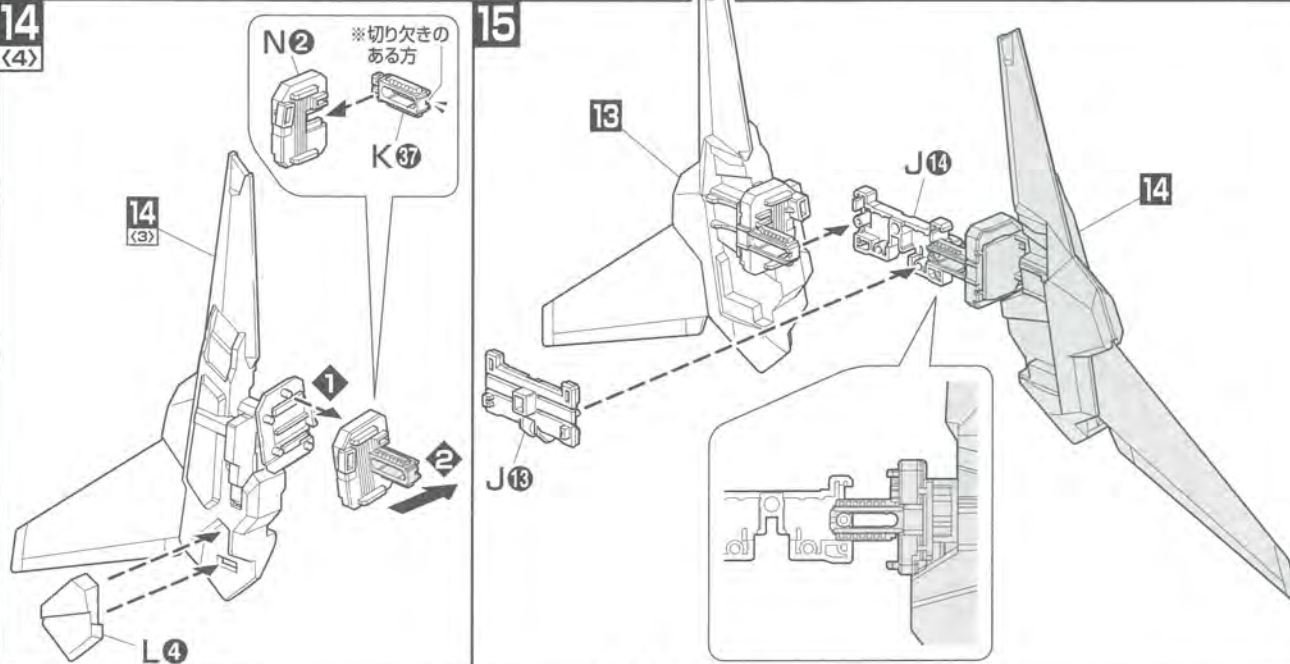
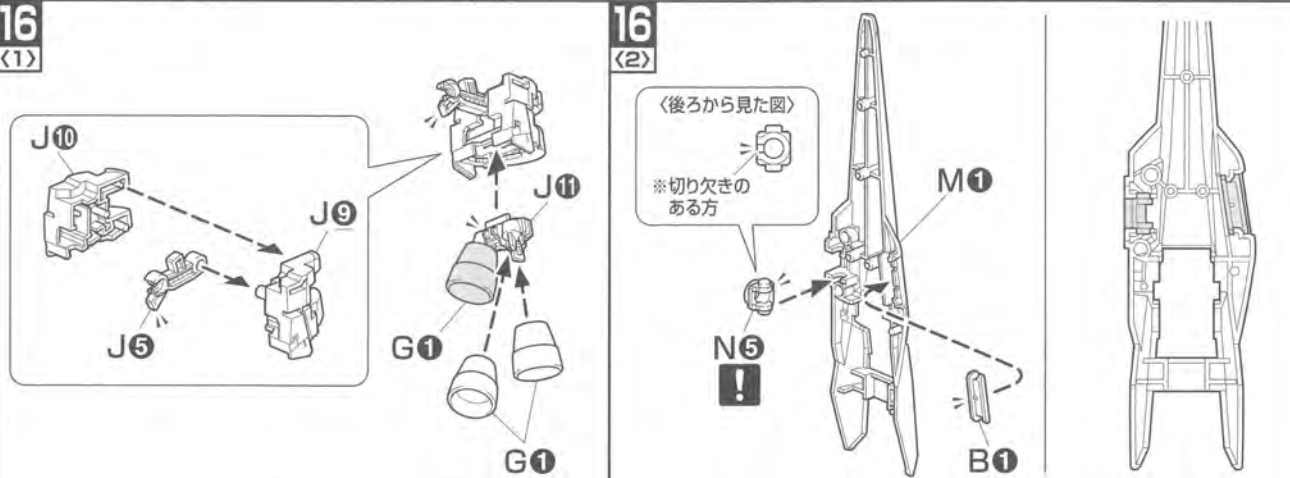
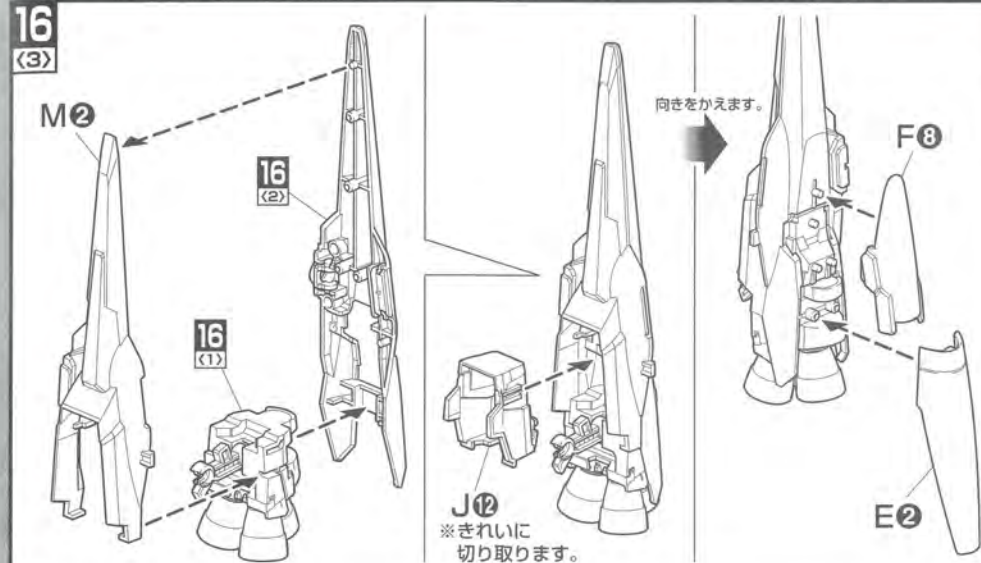
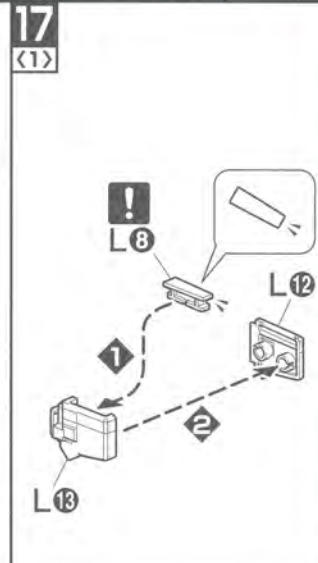
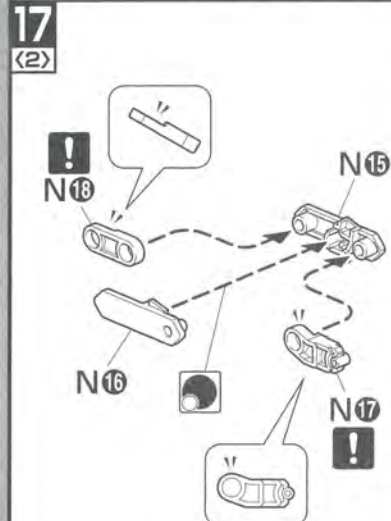
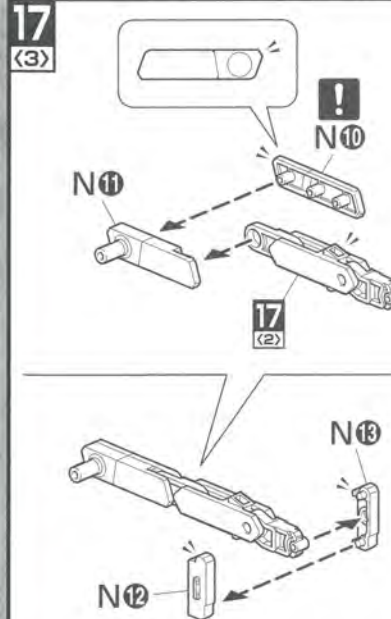
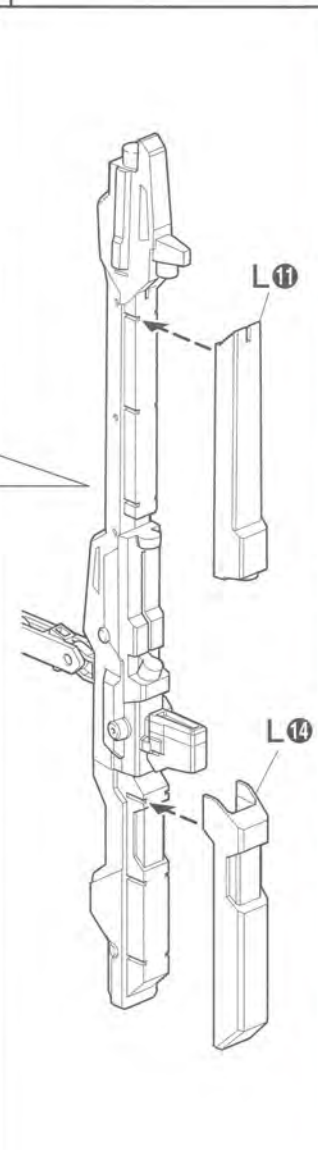
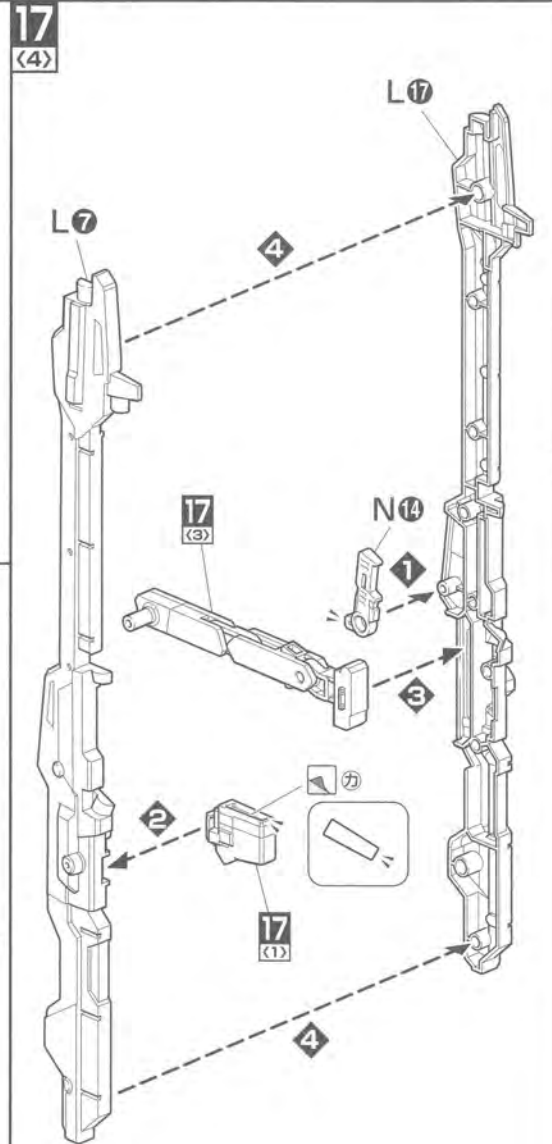
ゼータプラスC1(別売り)

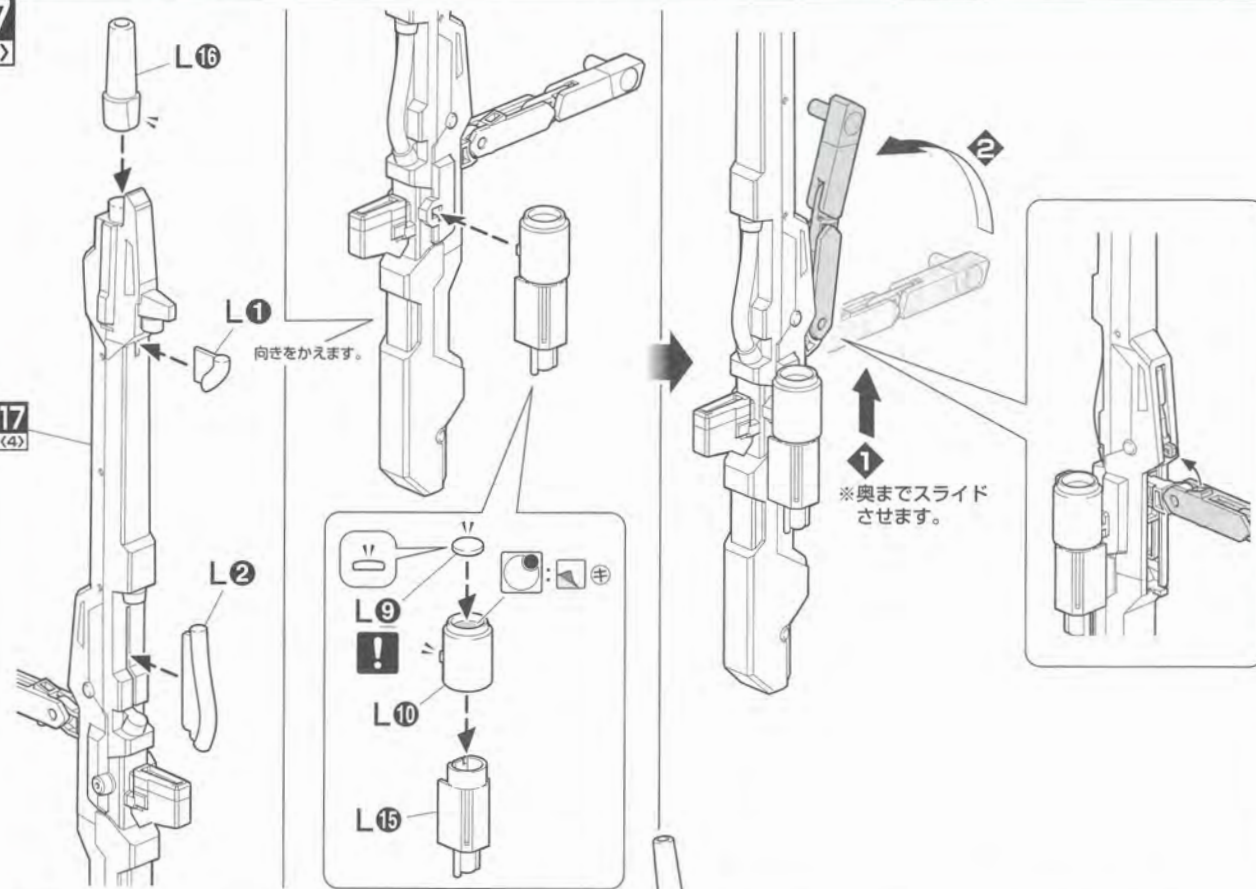
C1型は、ムーバブル・フレームによって支持されるビーム・スマートガンに固定武装とし、同軸式のディスクレールとリンクによりアウトレンジからの狙撃などにおいても威力を発揮する。

リゼル(別売り)

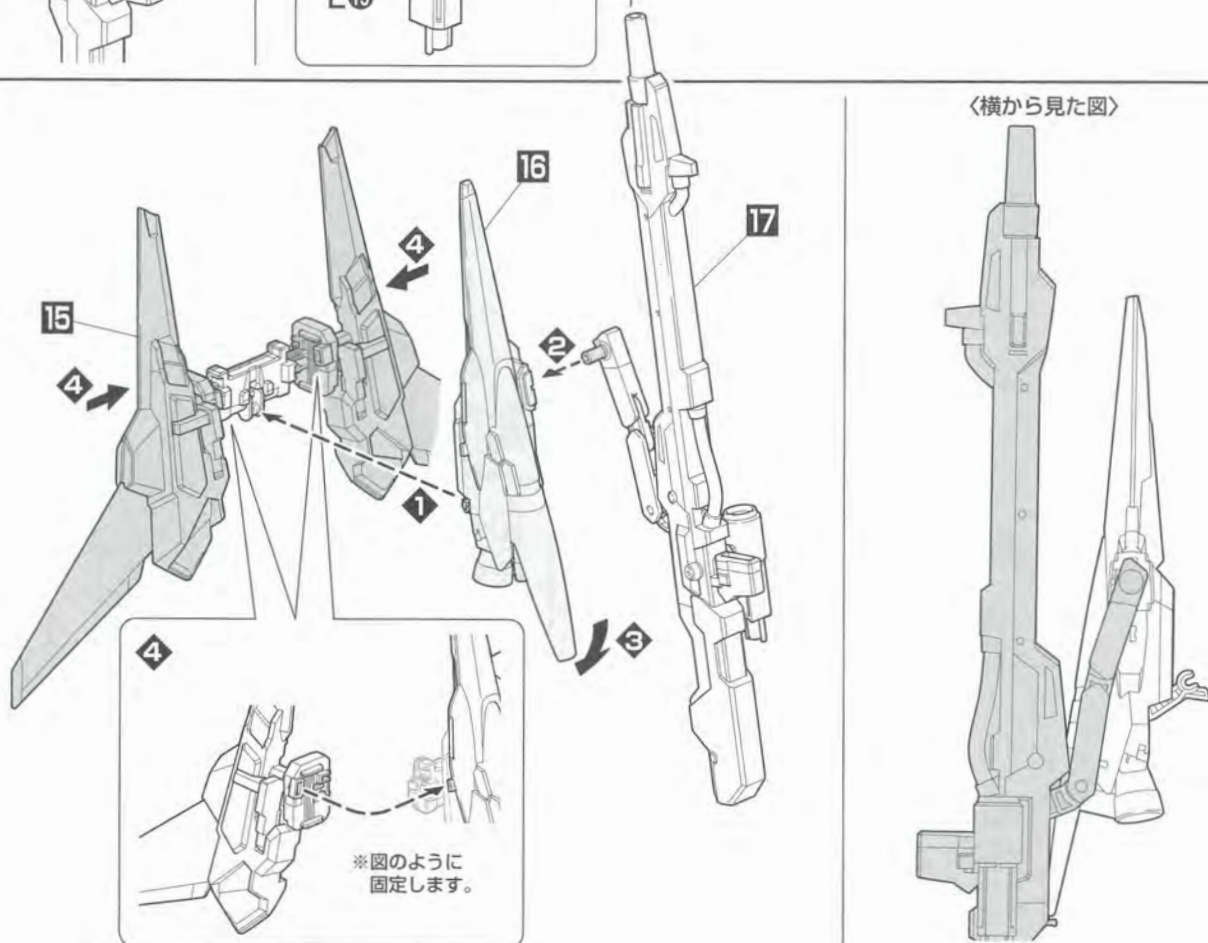
主力量産MS《ジェガン》の部品規格を可能な限り共有化してコストダウンを図り、ジム・ジェガン系MSの系譜としては初の可変機となった。



14
(3)14
(4)16
(1)16
(3)17
(1)17
(2)17
(3)17
(4)

17
(5)

18



20

※組立図中の
記号説明! 向きに注意して
組み立てる先
に
組み立てるシール
の
番号19
(1)※F②・F③は好きなところに
飾ってください。19
(2)

〈コックピットハッチの開け方〉

19
(3)

20 21 WEAPONS

・組立20・21で使用するパーツ

D (x2)



E



F



G



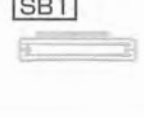
J



K (x2)

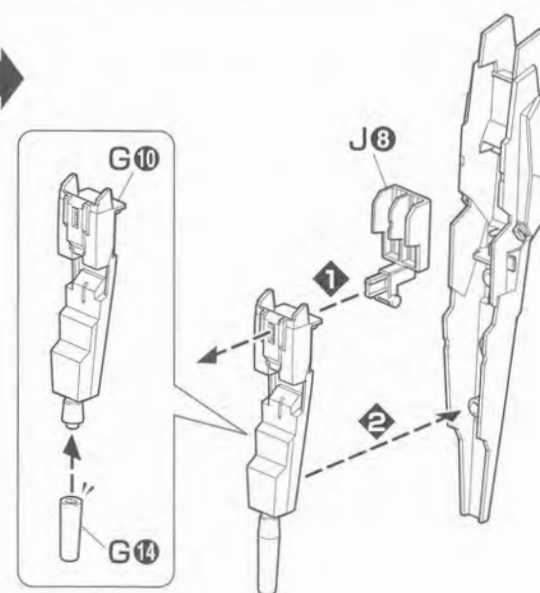
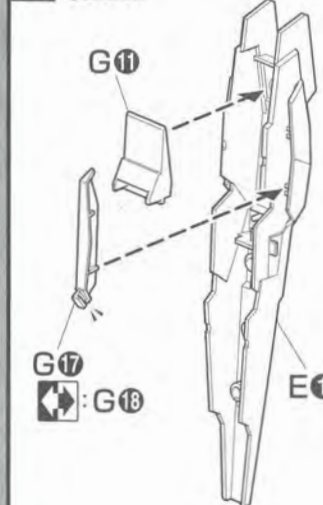
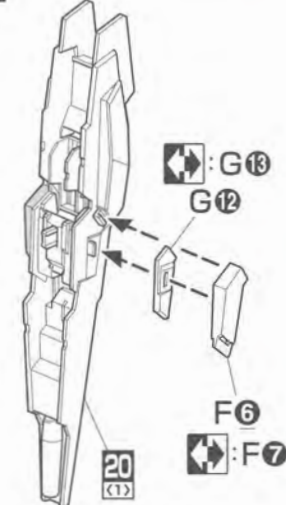


SB1



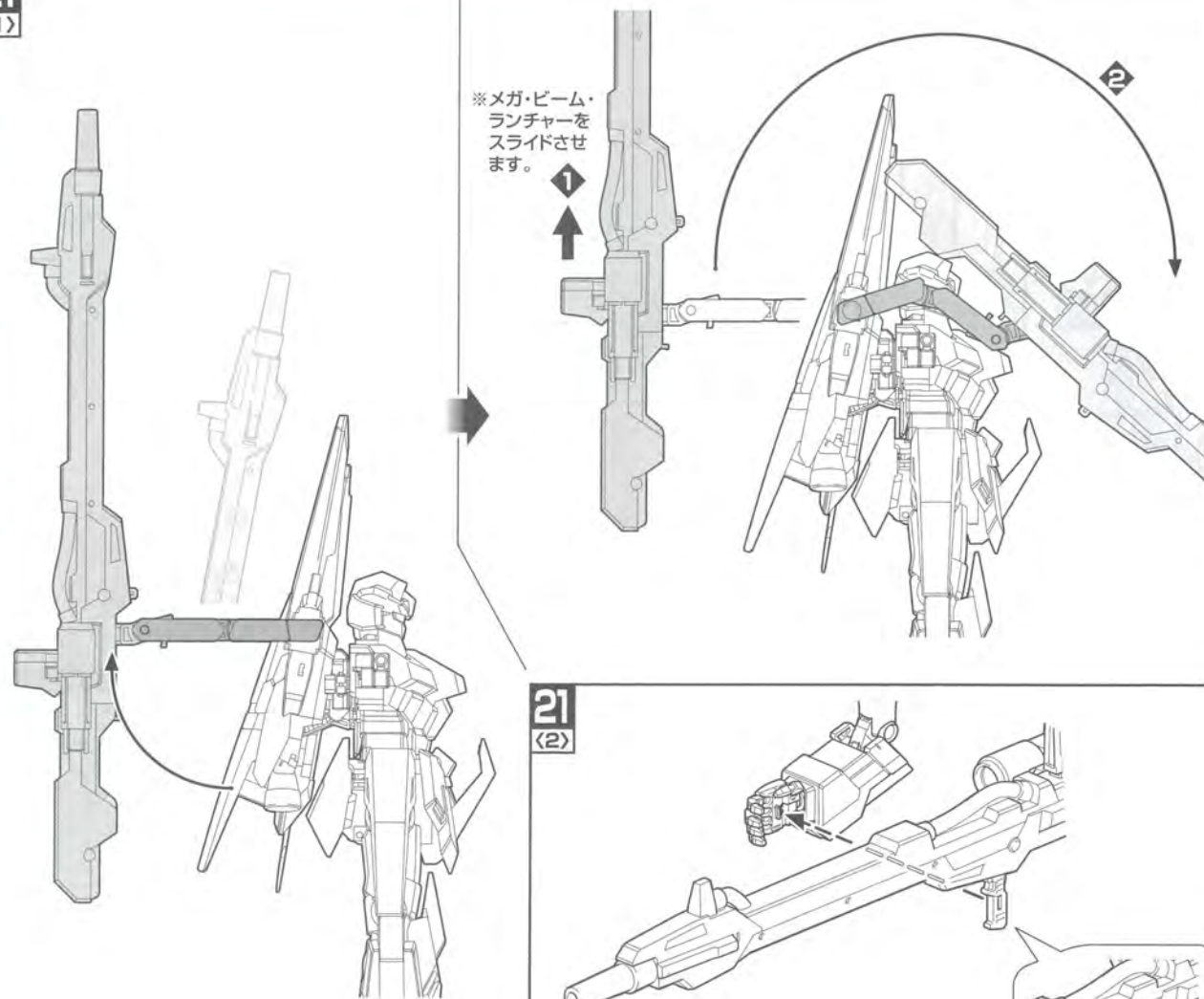
20 (シールドの組立)

(1) SHIELD

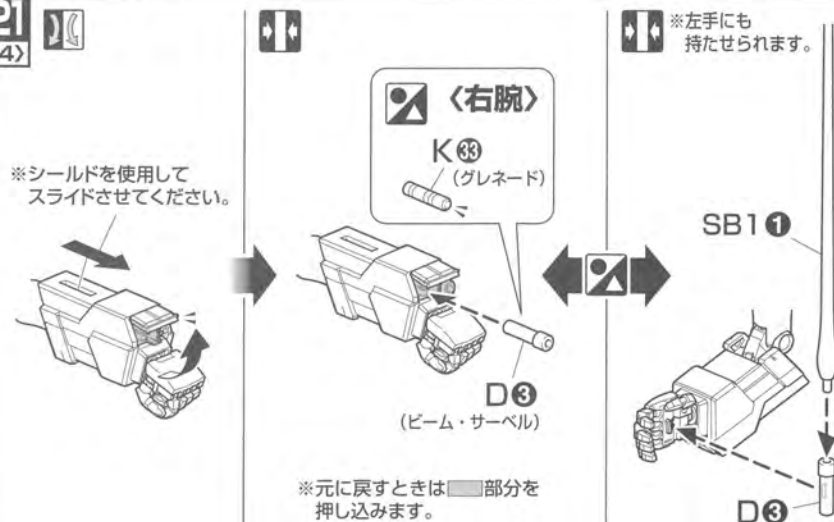
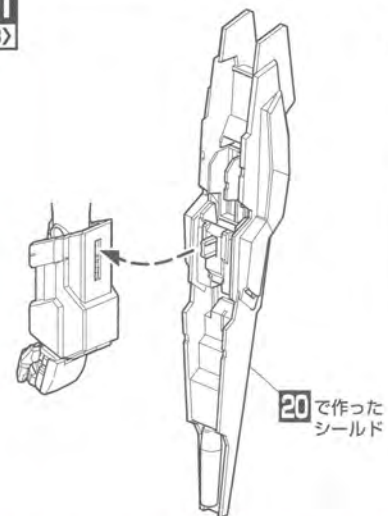
20
(2)

21

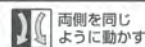
※組立図中の
記号説明反対側に取り
付けるパーツ両側を同じ
ように動かす



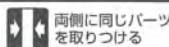
(説明のため両腕を外しています。)



※組立図中の記号説明



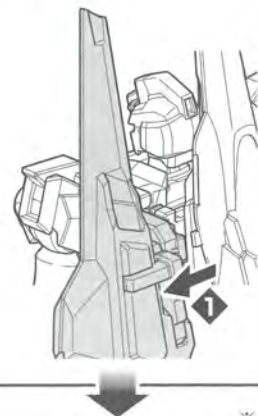
※どちらかを選んで取りつける



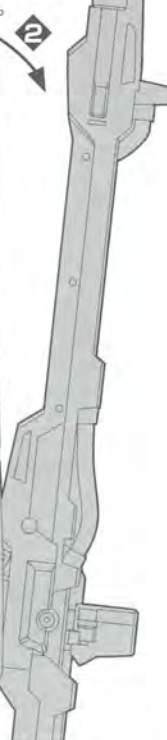
〔ウェイブライダーへの変形〕で使用するパーツ



※バックパックを左右に広げます。

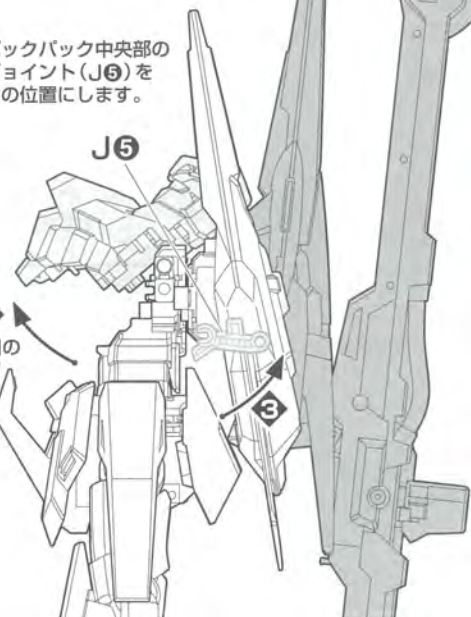


※バックパック中央部を動かします。



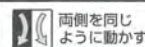
※バックパック中央部のジョイント(J5)を図の位置にします。

※胸部を図の位置まで開きます。



(説明のため両腕を外しています。)

※組立図中の記号説明



1 肩軸ジョイントを図の位置にします。



※シールド、J7(台座アダプタ)は取り外しておきます。
※メガ・ビーム・ランチャーの位置を19に戻します。

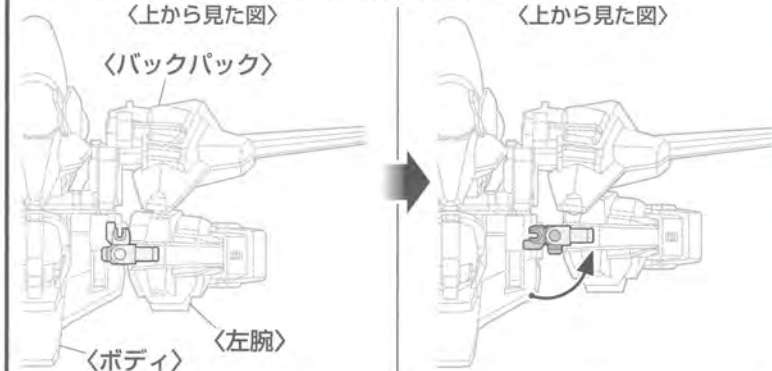
〈上から見た図〉

〈バックパック〉

〈ボディ〉

〈左腕〉

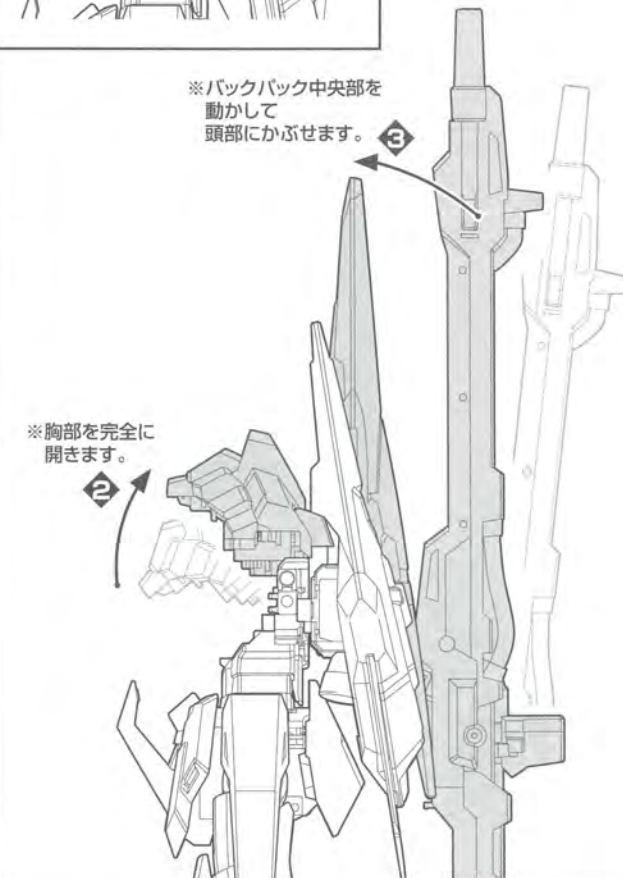
〈上から見た図〉



※頭部を収納します。

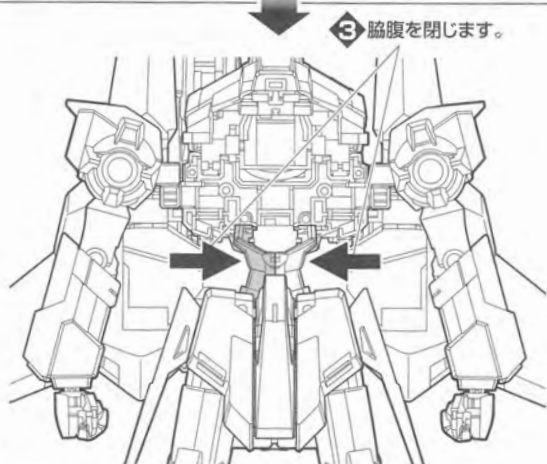
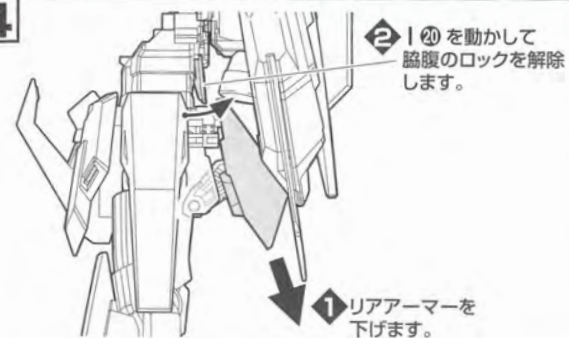


※バックパック中央部を動かして頭部にかぶせます。

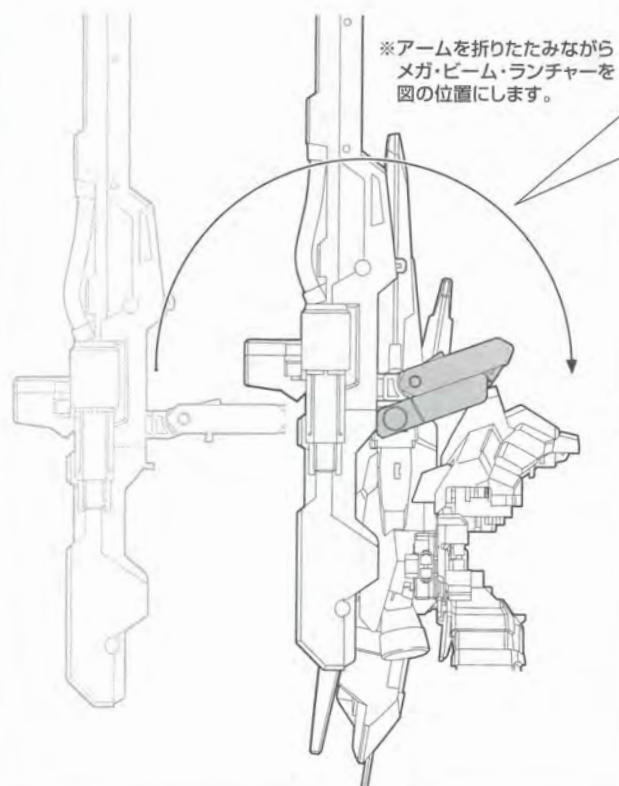


※胸部を完全に開きます。

4

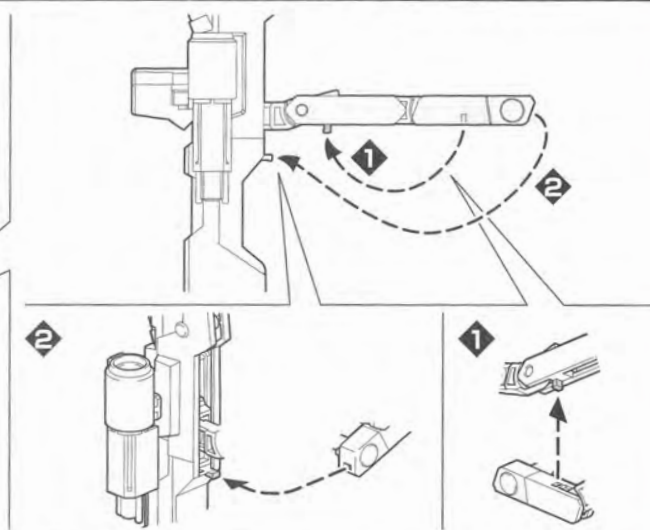
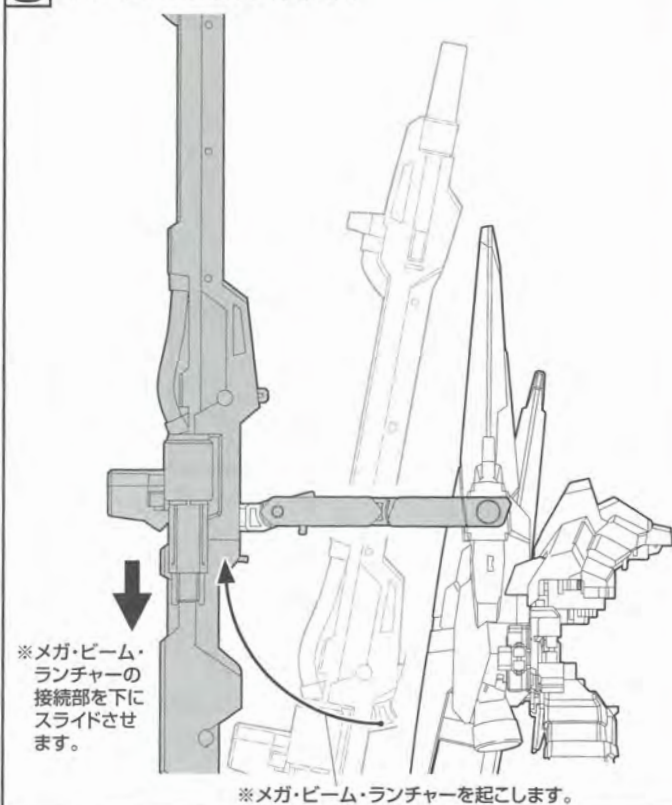


6



5

(説明のため両腕を外しています。)



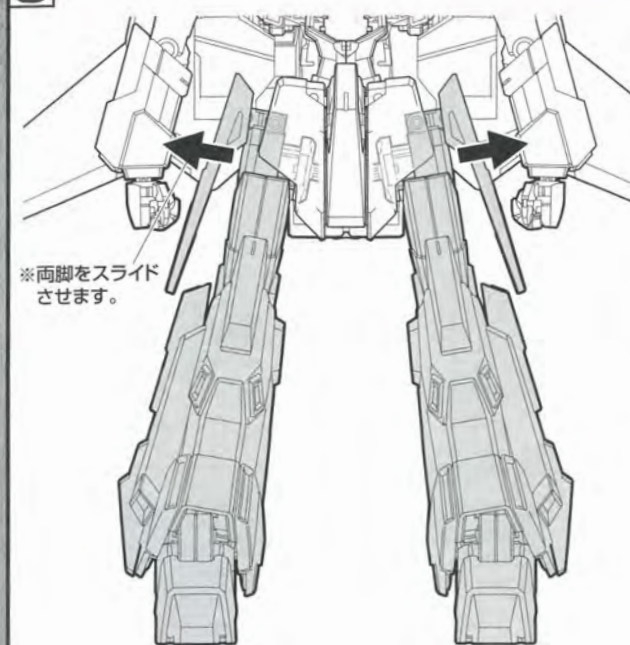
7

<バックパック中央部>

※ミゾに合わせて組み立てます。



8



9

<バックパック>

<右腕>

<ボディ>

※両腕を前方に動かします。

<肩軸の状態>



(説明のため両脚とバックパックを外しています。)

10

D

※肩軸ごと腕を上げます。



※肩軸を残して腕のみを下げます。

<肩軸の状態>



<前から見た図>

<左腕>

②

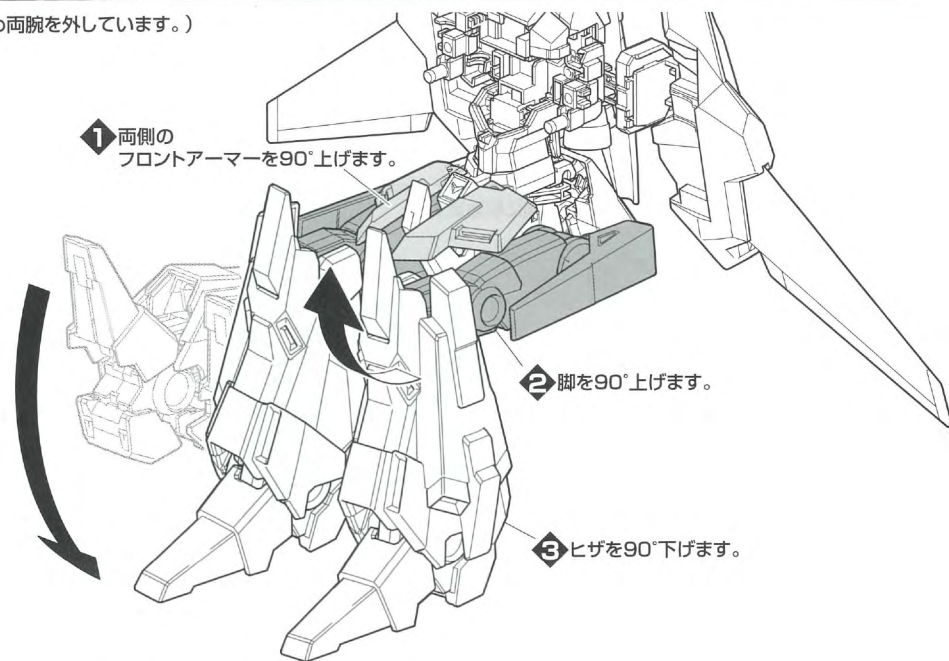
①

※右腕と同様に左腕を動かします。

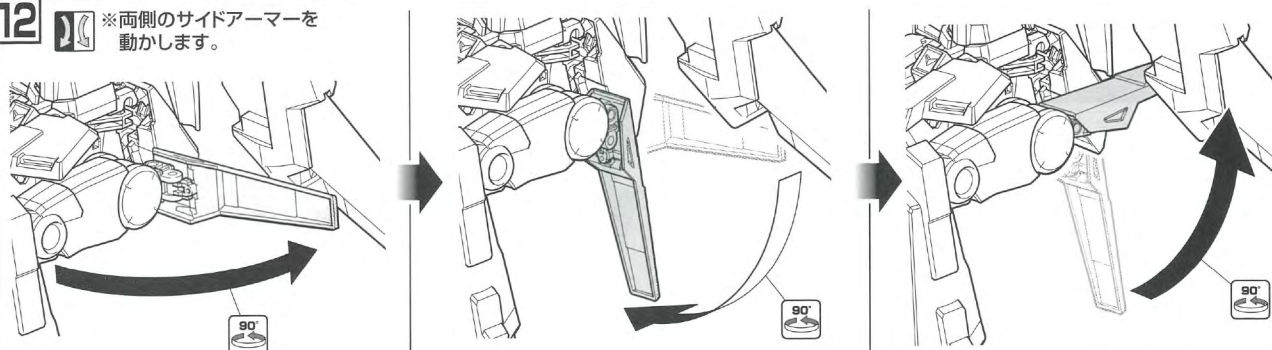
<変形後の右腕>

(説明のため両脚とバックパックを外しています。)

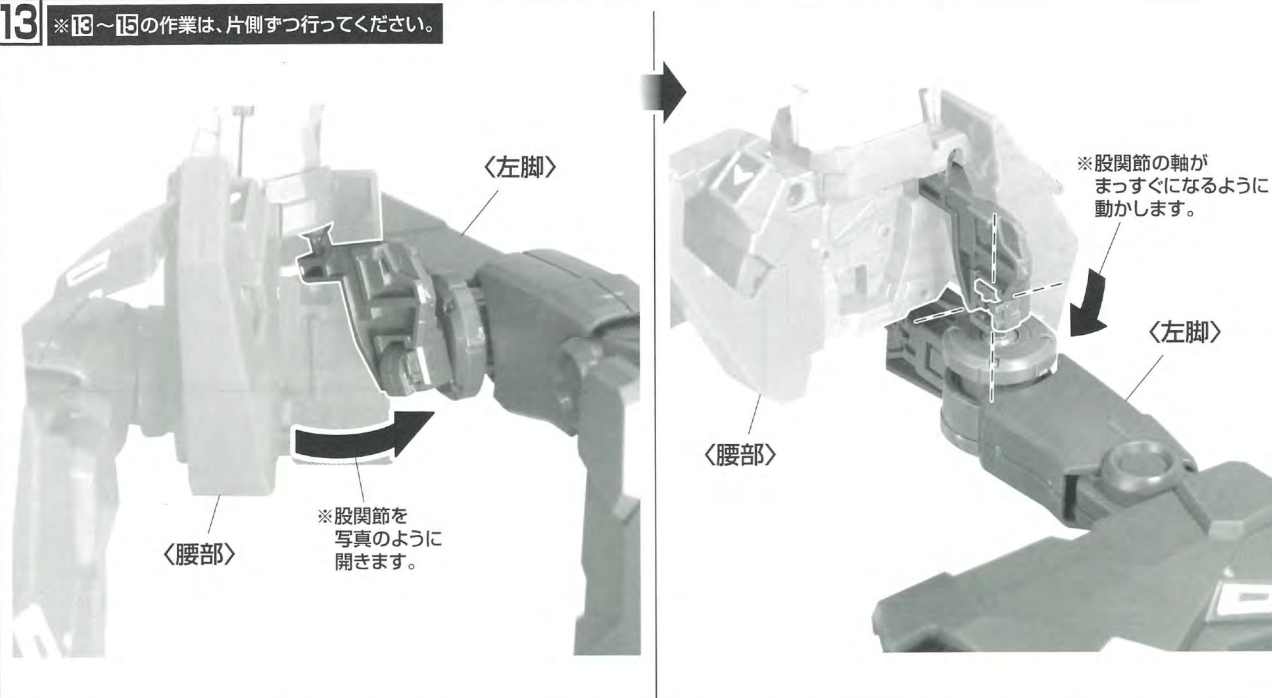
11 (説明のため両腕を外しています。)



12 ※両側のサイドアーマーを動かします。



13 ※18～15の作業は、片側ずつ行ってください。



※組立図中の記号説明

両側を同じように動かす

数値に合わせて回転させます。

26

14 ※腕とフロントアーマーを図の位置に動かしてください。



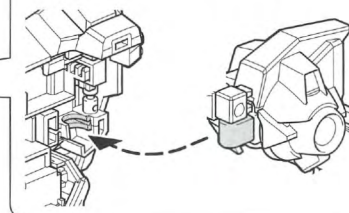
〈横から見た図〉

〈腕〉

〈フロントアーマー〉

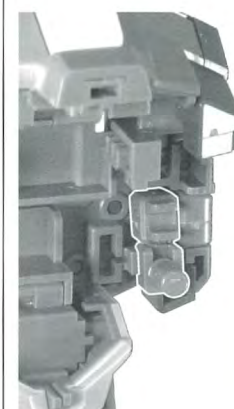
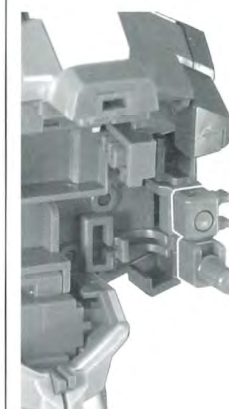
(説明のため両脚を外しています。)

※肩軸を図の位置に収めます。



〈収納前〉

〈収納後〉

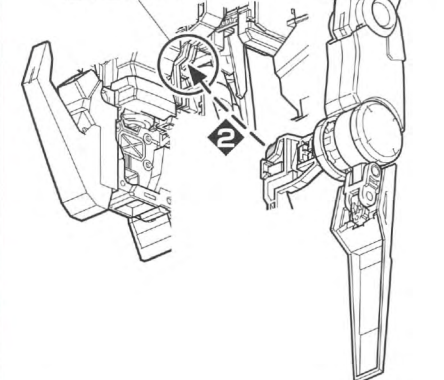


15

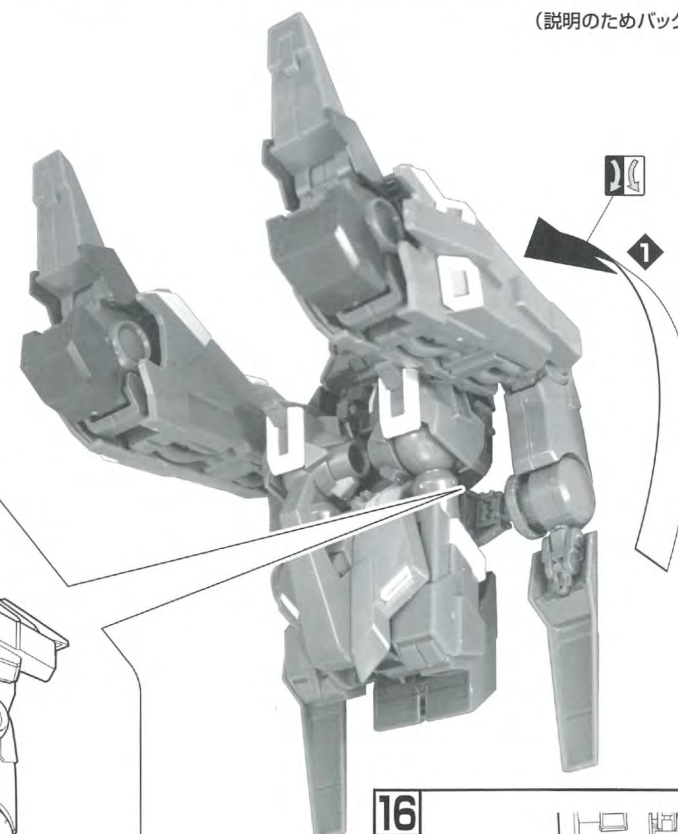
※左脚を①の手順で変形させた後、P26 18に戻り、右脚も同様に変形させてください。



※ミゾに差し込みます。

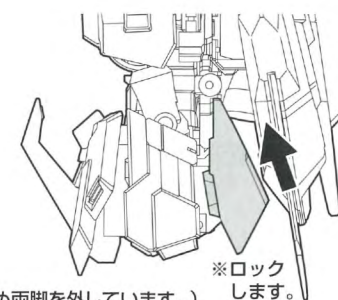


(説明のためバックパックを外しています。)



16

(説明のため両脚を外しています。)



※組立図中の記号説明

両側を同じように動かす

27

